

Microsoft System Center Operations Manager (SCOM) 向け Dell EMC OpenManage Integration v7.1 インストール ガイド

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: 概要	6
本書で使用される用語.....	6
Operations Manager 用 DSMPS および OMIMSSC バージョン 7.1 でサポートされる監視機能.....	7
監視機能の説明.....	8
プロキシ MS の概要.....	9
OMIMSSC のライセンス付与.....	9
章 2: OMIMSSC コンポーネント	10
章 3: OMIMSSC のシステム要件	11
アカウント権限.....	11
Dell EMC OMIMSSC の一般的なシステム要件.....	11
サポートされる拡張性での導入シナリオを使用した管理サーバおよびプロキシ MS の設定計画.....	12
章 4: OMIMSSC のインストール、設定、および管理	15
前提条件.....	15
ウェブからの OMIMSSC のダウンロード.....	15
OMIMSSC のセットアップ.....	15
仮想マシン (VM) の導入.....	16
OMIMSSC アプライアンス仮想マシンの設定および検証.....	16
管理ユーザーとしてのログイン.....	16
Dell EMC 設定管理パックのダウンロード.....	17
Operations Manager コンソールの登録.....	18
プロキシ MS の DellProxyMSGroup への追加および Dell プロキシ MS と OMIMSSC の同期.....	18
Operations Manager からの Dell EMC OMIMSSC の起動.....	19
章 5: OMIMSSC とそのコンポーネントの管理	21
OMIMSSC の詳細情報の表示.....	21
Dell EMC OMIMSSC ユーザー管理.....	21
登録済みコンソールの表示または更新.....	21
Operations Manager アカウントの変更.....	21
Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルに登録されているコンソールに使用する資格情報の変更.....	22
Operations Manager コンソールの登録解除.....	22
Dell EMC OMIMSSC アプライアンス仮想マシン (VM) の削除.....	22
ジョブの表示.....	22
章 6: Operations Manager 向け Dell EMC Server Management Pack スイートのインストール	24
前提条件.....	24
.exe ファイルを使用した Dell EMC Server Management Pack のインストール.....	24
複数の管理サーバへの Dell EMC Server Management Pack のインストール	25
Dell EMC Server Management Pack Suite の旧バージョンからのアップグレード.....	25
Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.0 から Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.1 へのアップグレード.....	25

Dell EMC Server Management Pack Suite の旧バージョンから Dell EMC OMIMSSC バージョン 7.1 へのアップグレード.....	26
バージョン 6.3 以前のバージョンからのアップグレード.....	26
Operations Manager 2012 R2 から Operations Manager 2016 へのアップグレード.....	26
以前の Operations Manager からのアップグレード.....	26
Operations Manager 2012 SP1 から Operations Manager 2012 R2 へのアップグレード.....	27
Operations Manager 2012 から Operations Manager 2012 SP1 へのアップグレード.....	27
Operations Manager 2007 R2 から Operations Manager 2012 へのアップグレード.....	27
Dell EMC Server Management Pack スイートでの修復オプションの使い方.....	27
Dell EMC Server Management Pack のアンインストール.....	27
.exe ファイルを使用した Dell EMC Server Management Pack の削除.....	27
Windows のコントロールパネルを使用した Dell EMC Server Management Pack のアンインストール.....	28
トラップ監視とトラップベースのユニット監視のための Operations Manager の設定.....	28
SNMP 監視のための Run As アカウントの作成.....	28
複数 Run As アカウントの関連付け.....	29
章 7: Dell EMC Feature Management Dashboard.....	30
Dell EMC Feature Management Dashboard.....	30
Dell EMC Feature Management Dashboard を使用した監視機能のインポート.....	30
Dell EMC Feature Management Dashboard を使用した Dell EMC 監視機能のアップグレード.....	32
Dell EMC Feature Management Dashboard を使用した Dell EMC 監視機能の削除.....	33
Operations Manager への管理パックのインポート.....	34
章 8: Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.1 でサポートされる監視機能.....	35
Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視機能.....	35
管理パック.....	35
設定の前提条件.....	36
管理サーバー (MS) の要件.....	36
管理下システム要件.....	37
機能管理タスク.....	37
Operations Manager 向け DRAC 監視機能.....	38
管理パック.....	38
設定の前提条件.....	39
管理サーバ (MS) の要件 (オプション).....	39
機能管理タスク.....	39
章 9: Dell EMC OMIMSSC バージョン 7.1 でサポートされる監視機能.....	41
Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能.....	41
管理パック.....	41
設定の前提条件.....	42
管理サーバー (MS) の要件.....	42
管理下システム要件.....	43
機能管理タスク.....	43
Dell EMC シャーシ監視機能.....	44
管理パック.....	45
設定の前提条件.....	45
Dell EMC シャーシ監視の要件.....	45
サーバモジュールとシャーシスロットサマリを相関させるための Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) 機能の設定.....	46
機能管理タスク.....	46

Dell EMC シャーシモジュールサーバ関連機能.....	47
管理パック.....	47
管理サーバー (MS) の要件.....	47
機能管理タスク.....	48
Dell EMC ネットワークスイッチ監視機能.....	48
管理パック.....	48
機能管理タスク.....	49
章 10: トラブルシューティング.....	50
OMIMSSC アプライアンスと Operations Manager コンソールとの間の接続の切断.....	50
Mozilla Firefox ブラウザを介して Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルにアクセスする際のエラーメッセージ.....	50
OMIMSSC アプライアンスへの接続の失敗.....	51
Dell EMC OMIMSSC アプライアンスと Operation Manager コンソール間の接続のテストに失敗する.....	51
OMIMSSC アプライアンスに割り当てられていない IP アドレス.....	51
進行中のアプライアンス検出ジョブスタック.....	51
Operations Manager コンソールで Dell EMC OMIMSSC を起動できない.....	51
Dell EMC OMIMSSC の再起動後に Dell EMC デバイスの検出と監視が失敗する.....	52
イベント ID 33333 : SqlError でデータアクセスレイヤが再試行を拒否する.....	52
Dell EMC Feature Management Dashboard が自動入力されない.....	52
Feature Management Dashboard タスクが失敗する.....	53
機能管理アラート.....	53
Feature Management Host Server の正常性サービスが機能していない.....	53
章 11: 付録.....	55
Web Services Management (WS-Man) と SMASH デバイステンプレートのインストール.....	55
登録解除中に到達不能となった Operations Manager コンソールの手動クリーンアップ.....	55
Run As アカウントの関連付けタスク — Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能.....	56
章 12: Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス.....	57

概要

本ガイドでは、Microsoft System Center Operations Manager (SCOM) 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 のインストール、設定、および使用の情報について説明します。

Microsoft System Center 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 と、Microsoft System Center 2016 Operations Manager、Microsoft System Center 2012 R2、または Microsoft System Center 2012 SP1 Operations Manager Microsoft System Center 環境との統合により、Dell デバイスを管理および監視し、その可用性の確保が実現します。

注意: データの破損、損失、またはそれら両方を避けるため、本書の手順は **Microsoft Windows** オペレーティングシステムおよび、**Microsoft System Center 2016 Operations Manager**、**Microsoft System Center 2012 R2 Operations Manager** の使用における適切な知識と経験をお持ちの場合にのみ実行してください。

Dell EMC OMIMSSC、vhd ファイルにパッケージ化されたアプライアンスベースソリューション、インストールガイド、リリースノートが .zip ファイルで提供されています。

Dell Sever Management Pack Suite 7.1 for Microsoft system Operations Manager、インストールガイド、およびリリースノートファイルは、自己解凍型実行ファイル Dell EMC Server Management Pack Suite v7.1 Axx.exe (xx は Dell EMC Server Management Pack バージョン 7.1 のリリース番号) にパッケージされています。この実行ファイルは Dell.com/support からダウンロードできます。Dell EMC OMIMSSC をインストールする前に、最新のドキュメントを Dell.com/omconnectionsEnterpriseSystemsManagement または Dell.com/openmanagemanuals からダウンロードしてください。

管理パックのリリースノートをお読みください。これには、既知の問題に関する情報のほか、ソフトウェアおよび管理サーバ要件に関する最新情報が掲載されています。リリースノートは、Dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement の **Systems Management** マニュアルページにも掲載されています。

トピック：

- 本書で使用される用語
- Operations Manager 用 DSMPS および OMIMSSC バージョン 7.1 でサポートされる監視機能
- 監視機能の説明
- プロキシ MS の概要
- OMIMSSC のライセンス付与

本書で使用される用語

表 1. 本書で使用される用語

用語	意味
Dell EMC シャーシ	特に指定がない限り、Dell EMC シャーシ管理コントローラ/OpenManage エンタープライズモジュール (CMC/OME-M)。
OMIMSSC	Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1
DSMPS	Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC Server Management Pack バージョン 7.1
Dell Remote Access Controller (DRAC)	特に指定のない限り、Dell EMC PowerEdge サーバ、Dell ブランドの OEM サーバ、Dell OEM Ready サーバの DRAC。
Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC)	特に指定のない限り、Dell EMC PowerEdge サーバ、Dell ブランドの OEM サーバ、Dell OEM Ready サーバの iDRAC。
iDRAC サービスモジュール (iSM)	iDRAC サービスモジュールは、サーバ上で実行される軽量ソフトウェアであり、OS からの監視情報を使用して iDRAC を補完します。サービスモジュールには、独自の新しいインタフェースはなく、iDRAC コンソールでユーザーが使用できる追加データで iDRAC を補完します。iSM とサポート対象プラットフォームの詳細については、

表 1. 本書で使用される用語 (続き)

用語	意味
	Dell.com/support の『iDRAC Service Module Installation Guide』(iDRAC サービスモジュールインストールガイド) を参照してください。
Operations Manager	特に指定のない限り、Microsoft System Center 2016 Operations Manager、Microsoft System Center 2012 R2 Operations Manager、Microsoft System Center 2012 SP1 Operations Manager。
Operations Manager 2016	特に指定のない限り、Microsoft System Center 2016 Operations Manager。
Operations Manager 2012	特に指定のない限り、Microsoft System Center 2012 R2 Operations Manager、Microsoft System Center 2012 SP1 Operations Manager。
プロキシ MS	物理ノードの監視に役立つプロキシ管理サーバ。
Dell EMC PowerEdge サーバ	特に指定がない限り、PowerEdge モノリシックサーバ、PowerEdge モジュールサーバ、PowerVault サーバ、サポート対象ラック型ワークステーション、Dell ブランド OEM サーバ、PowerEdge Storage Spaces Direct Ready ノード、Dell OEM Ready サーバ。
Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視	特に指定がない限り、PowerEdge モノリシックサーバ、PowerEdge モジュールサーバ、PowerVault サーバ、サポート対象ラック型ワークステーション、Dell ブランド OEM サーバ、Dell OEM Ready サーバ。これはライセンス不要な機能です。
Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象)	特に指定がない限り、PowerEdge モノリシックサーバ、PowerEdge モジュールサーバ、PowerVault サーバ、サポート対象ラック型ワークステーション、Dell ブランド OEM サーバ、PowerEdge Storage Spaces Direct Ready ノード、Dell OEM Ready サーバ。これはライセンスベースの機能です。

Operations Manager 用 DSMPS および OMIMSSC バージョン 7.1 でサポートされる監視機能

Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC Server Management Pack 7.1 では、次のことが可能です。

- 次の Dell EMC デバイスの検出と分類。
 - Dell EMC PowerEdge サーバ — ライセンス不要の監視および iSM を活用したライセンスベースの監視を使用します。
 - Dell Remote Access Controller
 - サポートされる Dell Precision ラック
 - 要件に応じ OMSA または iSM によりサポートされる Dell EMC デバイス。

Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration 7.1 では、次のことが可能です。

- 次の Dell EMC デバイスの検出と分類。
 - Dell EMC PowerEdge サーバ — iDRAC WS-MAN を使用したライセンスベースの監視の使用
 - Dell EMC シャーシ — PowerEdge FX2/FX2s、PowerEdge VRTX、PowerEdge M1000e、PowerEdge MX7000 シャーシ、および Dell OEM Ready シャーシ
 - OpenManage Enterprise-Modular をサポート
 - Dell EMC ネットワークスイッチ — M-Series、Z-Series、N-Series、および S-Series スイッチ
 - サポートされる Dell Precision ラック
 - WS-MAN を使用した iDRAC でサポートされる Dell EMC デバイス
 - Dell EMC シャーシモジュールサーバ相関
- アラートを表示、分析し、技術情報 (KB) 記事を使用して解決します。
- 検出された Dell EMC デバイスでさまざまなタスクを実行します。
- 検出された Dell EMC デバイスのレポートの表示。

表 2. Dell EMC OMIMSSC および Dell EMC Server Management Pack でサポートされる監視機能





















監視機能	Dell EMC OMIMSSC	Dell EMC Server Management Pack
Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視		

表 2. Dell EMC OMIMSSC および Dell EMC Server Management Pack でサポートされる監視機能（続き）

監視機能	Dell EMC OMIMSSC	Dell EMC Server Management Pack
Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視（ライセンス対象）— iDRAC ベース		
Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視（ライセンス対象）— iSM ベース		
DRAC 監視		
Dell EMC シャーシ監視		
Dell EMC シャーシモジュールサーバ関連		
Dell EMC ネットワークスイッチ監視		

  メモ:  は、それぞれの機能が使用できないことを意味します。

  メモ:  は、それぞれの機能が使用可能であることを意味します。

監視機能の説明

表 3. 監視機能とその説明

特長	説明
Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視	PowerEdge サーバー、PowerVault サーバー、Dell EMC ブランドまたは Dell EMC OEM 用サーバー、サポート対象 Dell Precision ラックのモニタリングおよびインベントリ。これはライセンス不要な機能です。
Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視（ライセンス対象）	PowerEdge サーバー、PowerVault サーバー、サポート対象 Dell Precision ラックのモニタリングおよびインベントリ、Dell EMC ブランドまたは Dell EMC OEM 用サーバーのハードウェア モニタリング、サポートされている iDRAC または iSM による Dell EMC Microsoft iDRAC Storage Spaces Direct Ready ノード。これは、ライセンス付きの機能です。
DRAC 監視	iDRAC デバイスの監視とインベントリ。
Dell EMC シャーシ監視	M1000e、FX2、VRTX、MX7000、OEM Ready シャーシなどのシャーシデバイスの監視およびインベントリ。
Dell EMC シャーシモジュール型サーバー関連	スロットまたは OEM Ready シャーシにおける、サーバーおよびラック型ワークステーションの監視機能またはサーバーおよびラック型ワークステーションの監視（ライセンス対象）機能で検出された、Dell モジュール型サーバーの関連
Dell EMC ネットワークスイッチ	M シリーズ、Z シリーズ、N シリーズ、S シリーズスイッチなどのネットワークスイッチ監視。

プロキシ MS の概要

プロキシ MS は、Windows Server オペレーティングシステムで実行される仮想マシンであり、Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration (バージョン 7.1以降)用に導入されました。これにより、監視、パフォーマンスメトリック、および SNMP アラートのワークフローが管理サーバからオフロードされるため、管理グループ内で監視されるデバイス数が拡張されます。管理サーバとプロキシ MS は同じドメイン内にあります。プロキシ MS は Operations Manager コンソールで、エージェント管理対象の Windows コンピュータとして検出されます。プロキシ MS の使用方法の詳細については、「[プロキシ MS の DellProxyMSGroup への追加および Dell プロキシ MS と OMIMSSC の同期](#)」を参照してください。

Dell EMC Server Management Pack バージョン 7.0 では、5 台の管理サーバで構成された管理グループを使用する場合、拡張可能モードで監視できるのは最大 600 台のデバイスです。プロキシ MS が導入された Dell EMC OMIMSSC バージョン 7.1 では、監視対象デバイスをさらに拡張することが可能で、数千以上のノードを含めることができます。詳細については、「[サポートされる拡張性での導入シナリオを使用した管理サーバおよびプロキシ MS の設定計画](#)」を参照してください。

 **メモ:** プロキシ MS は、Operation Manager 2016 でのみサポートされます。

OMIMSSC のライセンス付与

ライセンス情報

Operations Manager 向け Dell EMC Server Management Pack Suite の Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーション監視 (ライセンス対象) 機能には、ライセンスが付与されています。ソフトウェアライセンスの取得プロセスに関する情報は、次のとおりです。

ライセンス

監視したいノードの数に応じて、ライセンスを購入する必要があります。

ライセンスの購入

Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能を利用するには、デルから (必要な数の管理下ノードに応じて) ライセンスを購入する必要があります。注文の確認とライセンスは、マイアカウント - デルで指定した電子メール ID に電子メールで送信されます。購入したライセンスは、<http://www.dell.com/support/licensing> の Dell Digital Locker ポータルからもダウンロードすることができます。ライセンスをダウンロードできない場合は、<https://www.dell.com/support/incidents-online/in/en/inbsd1/ContactUs/Dynamic> にアクセスして、デルカスタマーサポートにメールを送信します。

ライセンスの使用状況の確認

コンソールには、PowerEdge サーバを管理するためのライセンスが必要です。Operations Manager 向けの Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能で管理されている PowerEdge サーバを表示するには、Operations Manager で **監視 > Dell EMC > Dell EMC Feature Management Dashboard** を順に選択します。

使用されているノード数が、**ノードの合計数**列に表示されます。

Operations Manager 向け Dell Server Management Pack Suite バージョン 6.0 からの変更

Operations Manager 向け Dell Server Management Pack バージョン 6.0 までは、ライセンスを管理するために Dell Connections License Manager (DCLM) が必要でした。Dell Server Management Pack Suite バージョン 6.1以降では、DCLM は必要ありません。

DCLM が削除されると、ライセンス数の強制はなくなります。デルから購入したライセンス数の上限に達した場合または超過した場合でも、Operations Manager 向けサーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能を使用して PowerEdge サーバを引き続き管理できます。**ライセンスの使用状況の確認** セクションでは、適切なライセンス権利をデルから購入するために、管理対象のノード数を決定する手順を説明します。管理するノード数が購入したライセンス数を超えた場合には、追加ライセンスを購入する必要があります。

Operations Manager 向け Dell Server Management Pack Suite バージョン 6.0 用に購入したライセンスは、Operations Manager 向け Dell Server Management Pack Suite バージョン 6.1以降にも適用されます。そのため、製品のアップグレード後も以前のライセンスは引き続き有効であり、以前購入したライセンスで規定された許容数までサーバを管理できます。

ライセンスの使用条件

ライセンスは、製品 EULA と同じ条件で規定されています。更新された最新のライセンス条件は、dell.com/learn/us/en/uscorp1/terms?s=corp から取得できます。詳細については、デルの営業およびサポートにお問い合わせください。

OMIMSSC コンポーネント

このマニュアルで使用されている OMIMSSC コンポーネントとその名前のリストを次に示します。

- Operations Manager 用 OMIMSSC は、Hyper-V でホストされる仮想マシンです。CentOS ベースで、次のタスクを実行します。
 - Dell EMC デバイスとのインタラクション、およびサポートされるプロトコルは次のとおりです。
 - Web Services-Management (WS-MAN)
 - 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)
 - RedFish
 - OMIMSSC は、Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルから管理できます。

OMIMSSC のシステム要件

トピック：

- アカウント権限
- Dell EMC OMIMSSC の一般的なシステム要件
- サポートされる拡張性での導入シナリオを使用した管理サーバおよびプロキシ MS の設定計画

アカウント権限

Operations Manager 向け OMIMSSC で使用されるアカウントの要件です。

ユーザーは次のグループのメンバーである必要があります。

- ドメインユーザーグループ
- 管理サーバのローカル管理者グループ
- Operations Manager の管理グループ

Dell EMC OMIMSSC の一般的なシステム要件

Dell EMC OMIMSSC アプライアンスをセットアップする前に、次のソフトウェアの前提条件を満たしていることを確認します。

Dell EMC OMIMSSC アプライアンスのインストールは、次の方法のいずれかでを行います。

- **Hyper-V** を使用している場合は、**.vhd** ファイルを使用して仮想マシンを導入します。
- **VMware ESXi** ホスト バージョン 6.5 以降を使用している場合は、**.ova** ファイルを使用して仮想マシンを導入します。

Dell EMC OMIMSSC アプライアンスは、グループ内の管理サーバのいずれかの登録を通じて、1つの管理グループの登録をサポートします。ハードウェア要件は次のとおりです。

表 4. ハードウェア要件

コンポーネント	要件
RAM	8 GB
プロセッサ数	4
ハードディスク	40 GB

管理ポータル要件：

次のいずれかのサポート対象ブラウザをインストール：

1. Internet Explorer 10 以降
2. Mozilla Firefox 30 以降
3. Google Chrome 23 以降
4. Microsoft Edge

プロキシ MS については、「サポートされる拡張性での導入シナリオを使用した管理サーバおよびプロキシ MS の設定計画」の「Proxy MS virtual machine Configuration」セクションを参照してください。さらに詳細については、docs.microsoft.com/を参照してください。

ゲートウェイ サーバーの場合に検出を続行するには、OMIMSSC アプライアンスから iDRAC にアクセスできる必要があります。

サポートされる拡張性での導入シナリオを使用した管理サーバおよびプロキシ MS の設定計画

Dell EMC デバイスの検出は、Operations Manager コンソールおよび Dell EMC OMIMSSC コンソールで行えます。Dell EMC OMIMSSC の各インスタンスは、デバイスの検出とモニタリングについては 1 つの管理グループ (MG) のみをサポートします。

環境に必要な導入シナリオに従って、管理サーバとプロキシ MS を設定できます。

表 5. Operations Manager 2012 R2 の導入シナリオ

モニタリングモード	デバイス数	管理サーバの数
拡張性	<=600	ネットワーク デバイスが 2000 台ある場合は、必要な管理サーバ台数に関して『 サイジングガイド 』を参照してください。
詳細	<=120	ネットワーク デバイスが 2000 台ある場合は、必要な管理サーバ台数に関して『 サイジングガイド 』を参照してください。

メモ: Operations Manager 2012 SP1 では、OMIMSSC はサポートされません。

管理グループでは、拡張可能モード (5 つの管理サーバを、各管理サーバが 4 つのプロキシ MS に接続でき、各プロキシ MS が 1 つの管理グループで指定された 250 台のデバイスをサポートできるように設定可能) の場合、最大 5000 ノードに拡張できます。

詳細モードの場合、各管理サーバは 2 つのプロキシ MS に接続でき、各プロキシ MS は 30 台のデバイスをサポートできます。

表 6. Operations Manager 2016 の導入シナリオ

シナリオ 1: Operations Manager (SMASH/ ネットワークスイッチ) を使用したデバイスの検出					
Dell EMC デバイスは、Operations Manager コンソールでネットワークデバイスまたは SMASH デバイスとして検出されます。SMASH デバイスの入力が行えるのは SMASH モニタリング ウィザードであり、ネットワーク スイッチの場合は Operations Manager コンソールのネットワーク デバイス検出ウィザードです。					
モニタリングモード	デバイス数	プロキシ MS が設定済み	管理サーバの数	プロキシ MS の数	備考
拡張性	<=600	いいえ	ネットワーク デバイスが 2000 台ある場合は、必要な管理サーバ台数に関して『 サイジングガイド 』を参照してください。	該当なし	該当なし
		はい	ネットワーク デバイスが 2000 台ある場合は、必要な管理サーバ台数に関して『 サイジングガイド 』を参照してください。	>=3	各プロキシ MS は、拡張可能モードでは最大 250 台のデバイスを監視できます。プロキシ MS の設定については、表『 プロキシ MS 仮想マシンの設定 』を参照してください。
詳細	<=120	いいえ	ネットワーク デバイスが 2000 台ある場合は、必要な管理サーバ台数に関して『 サイジングガイド 』を参照してください。	該当なし	該当なし
		はい	ネットワーク デバイスが 2000 台ある場合は、必要な管理サーバ台数に関して『 サイジングガイド 』を参照してください。	>=4	各プロキシ MS は、詳細モードでは最大 30 台のデバイスを監視できます。プロキシ MS の設定については、表『 プロキシ MS 仮想マシンの設定 』を参照してください。

表 6. Operations Manager 2016 の導入シナリオ (続き)

シナリオ 2 : Dell EMC OMIMSSC (iDRAC、シャーシ、ネットワークスイッチ) を使用したデバイスの検出					
Dell EMC デバイスは、Dell EMC OMIMSSC コンソールで、iDRAC、Dell EMC シャーシ、または Dell EMC ネットワークスイッチとして検出されます。入力は Dell EMC OMIMSSC コンソールで行われ、検出中に IP アドレス範囲の提供および、適切な認定資格プロフィールとジョブの関連付けが行われます。					
拡張性	600 ~ 5000	はい	ネットワーク デバイスが 2000 台ある場合は、必要な管理サーバー台数に関して『 サイジングガイド 』を参照してください。	3 ~ 20	各プロキシ MS は、拡張可能モードでは最大 250 台のデバイスを監視できます。プロキシ MS の設定については、表「 プロキシ MS 仮想マシンの設定 」を参照してください。
詳細	120 ~ 300	はい	ネットワーク デバイスが 2000 台ある場合は、必要な管理サーバー台数に関して『 サイジングガイド 』を参照してください。	4 ~ 10	各プロキシ MS は、詳細モードでは最大 30 台のデバイスを監視できます。プロキシ MS の設定については、表「 プロキシ MS 仮想マシンの設定 」を参照してください。

表 7. プロキシ MS 仮想マシンの設定

コンポーネント	プロキシ MS 設定
CPU コア数	8
RAM (GB)	32

必須の前提条件 :

1. 各プロキシ MS で次のレジストリ設定がされていることを確認します。以下の手順を実行します。

OMIMSSC_7.1.0.A00_SCOM.zip ファイルを抽出した後、次の手順を実行します。

- a. 同じディレクトリにある各プロキシ MS マシンの解凍位置から、**DellEMC-SCOM-Agent-Registry.reg** および **DellEMC-Proxy-MS-Configuration-Script.ps1** ファイルをコピーします。
- b. PowerShell コマンドプロンプトから **DellEMC-Proxy-MS-Configuration-Script.ps1** を実行します (管理者権限で実行)。

① メモ:

- このスクリプトは、エージェント正常性サービスを停止し、同じディレクトリパス内で現在のレジストリ値のバックアップを取得します。
- 必要なレジストリキーの変更は、プロキシ MS に実装されます。プロキシ MS のレジストリ設定については、次の表を参照してください。
- Microsoft Monitoring Agent Health Services が開始されます。

- レジストリパス : "HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\services\HealthService\Parameters"

表 8. プロキシ MS レジストリ設定

S.No.	レジストリ設定
1	Persistence Version Store Maximum Registry Path を 131072 に設定します。
2	Maximum Global Pending Data Count Registry を 20408 に設定します。
3	State Queue Items Registry を 20480 に設定します。
4	Persistence checkpoint Depth Maximum Registry を 20971520 に設定します。

① **メモ:** レジストリキー設定の詳細については、<https://blogs.technet.microsoft.com/> を参照してください。

△ 注意: Registry Editor の誤操作は、重大な問題を発生させる可能性があり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合もあります。

メモ: このサンプルスクリプトは、プロキシ MS に必要な上記の設定操作を簡易化するためのものです。Dell EMC では、このスクリプトを正式にサポートはしていません。

- Microsoft のパブリック ホットフィックス (<https://support.microsoft.com/>) は、拡張性のセットアップで各 System Center Operations Manager サーバーおよび各プロキシ MS に適用する必要があります。

メモ: プロキシ MS で、**C:\Program Files\Microsoft Monitoring Agent\Agent\SnmpModules.dll** にある SnmpModules.dll を特定します。

推奨事項 :

次に、プロキシ MS についての推奨事項をいくつか示します。

- 監視するデバイスの数を確認し、それに応じてプロキシ MS を作成します。各プロキシ MS は、拡張可能モードでは最大 250 台のデバイス、詳細モードでは最大 30 台のデバイスを監視できます。
- 1 台の管理サーバに追加できるプロキシ MS の最大数は 4 以下です。
- プロキシ MS の配置は、リソースプール内のすべての管理サーバに対称的に分散させるようにします。
- プロキシ MS の数を増やしすぎて管理サーバを過負荷にしないようにします。1 つの管理サーバで安全を確保するためには、拡張可能モードでは 1000 台のデバイス、詳細モードでは 60 台のデバイスをプロキシ MS 経由でのモニタリングの上限とします。

メモ: プロキシ MS を Operations Manager グループの **Dell ProxyMSGGroup** に追加する場合は、同期を実行して、必要な設定変更をプロキシ MS エージェントに適用させます。詳細については、『**Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 ユーザーズ ガイド**』の「**Dell プロキシ MS と OMIMSSC の同期およびプロキシ MS の DellProxyMSGGroup への追加**」を参照してください。

OMIMSSC のインストール、設定、および管理

トピック：

- 前提条件
- ウェブからの OMIMSSC のダウンロード
- OMIMSSC のセットアップ
- Dell EMC 設定管理パックのダウンロード
- Operations Manager コンソールの登録
- プロキシ MS の DellProxyMSGGroup への追加および Dell プロキシ MS と OMIMSSC の同期
- Operations Manager からの Dell EMC OMIMSSC の起動

前提条件

Dell EMC OMIMSSC をインストールするには、前提条件として先に以下をインストールしておく必要があります。

- 次のいずれかのバージョンの Operations Manager がインストールされていること。
 - 2016
 - ① **メモ:** Nano Windows Server オペレーティングシステムを実行しているシステムでは、Microsoft サポート技術情報 KB3190029 で提供されている Update Rollup 1 for Microsoft System Center 2016 - Operations Manager エージェント パッケージを適用します。詳細については、support.microsoft.com/kb/3190029 を参照してください。
 - 2012 R2
- Dell EMC Server Management Pack Suite がインストールされている管理サーバ上でのローカル管理者特権。
- 次の Windows ファイアウォールルールを有効にします。
 - Operations Manager SNMP 応答
 - Operations Manager SNMP Trap Listener
 - Operations Manager ping 応答
- Windows PowerShell 3.0 以降 (システムで Windows Server 2012 R2 オペレーティングシステムを実行している場合)。

ウェブからの OMIMSSC のダウンロード

OMIMSSC をダウンロードするには、次の手順を実行します。

1. デルサポートサイトから、OMIMSSC ファイルをダウンロードします。
 - ① **メモ:** ライセンスキーをダウンロードできない場合は、www.dell.com/support/softwarecontacts に掲載されている、地域および製品ごとのデルサポートの電話番号までお問い合わせください。
2. VHD ファイルを解凍して、「OMIMSSC のセットアップ」に記載されている手順に従います。

OMIMSSC のセットアップ

OMIMSSC アプライアンスをセットアップする Hyper-V について、次の要件を満たすことを確認してください。

- 仮想スイッチが設定済みで使用可能である。
- Operations Manager がセットアップされているシステムのユーザー資格情報。
- Operations Manager の FQDN
- 登録する Operations Manager コンソールに基づいて、アプライアンス VM のメモリを割り当てます。詳細については、「OMIMSSC の一般的なシステム要件」を参照してください。

仮想マシン (VM) の導入

OMIMSSC を設定するには、仮想マシンを導入する必要があります。

1. **Hyper-V Manager** の **アクション** メニューから **新規** を選択し、**Virtual Machine Manager** をクリックします。
仮想マシンの新規作成ウィザードが表示されます。
2. **開始する前に** で **次へ** をクリックします。
3. **名前と場所の指定** では、仮想マシンの名前を入力します。
別の場所に仮想マシンを格納する場合は、**別の場所に仮想マシンを格納** を選択し、**ブラウズ** をクリックして、新しい場所をスキップします。
4. **世代の指定** で、**第1世代** を選択してから、**次へ** をクリックします。
5. **メモリの割り当て** で、前提条件で示されるメモリ容量を割り当てます。
6. **ネットワークの設定 > 接続** で、使用するネットワークを選択し、**次へ** をクリックします。
7. **仮想ハードディスクの接続** で **既存の仮想ハードディスクを使用** を選択し、**OMIMSSC—v7.1 VHD** ファイルがある場所をスキップして、そのファイルを選択します。
8. **概要** で指定した詳細を確認し、**完了** をクリックします。
9. **仮想プロセッサの数** の値を 4 に設定します。デフォルトでは、プロセッサの数が 1 に設定されています。
プロセッサ数を設定するには次のようにします。
 - a. アプライアンスを右クリックして、**設定** を選択します。
 - b. **設定** で **プロセッサ** を選択し、**仮想プロセッサの数** を 4 に設定します。


OMIMSSC アプライアンス仮想マシンの設定および検証

アプライアンス VM が適切に設定されていることを検証するには、**アプライアンス VM** を選択して右クリックして **設定** をクリックし、次のタスクを実行します。

1. アプライアンスのメモリ割り当てが、「**OMIMSSC の共通システム要件**」に記載されている要件に従っていることを確認します。
足りない場合は、**スタートアップ RAM** にメモリを増設し、**適用** をクリックします。
2. プロセッサ数が、「**OMIMSSC の共通システム要件**」に記載されている要件に従っていることを確認します。要件を満たしていない場合は、**プロセッサ数** の **仮想プロセッサ数** にプロセッサ数を指定します。
3. IDE コントローラの **仮想ハードディスク** を確認します。これには、**IDE コントローラ 0 > ハードドライブ** で **OMIMSSC - v7.1** ファイルを参照している **仮想ハードディスク** を確認するか、**参照** をクリックして VHD ファイルが解凍された場所を開き、**OMIMSSC - v7.1** ファイルを選択して **適用** をクリックします。
4. **ネットワークアダプタ > 仮想スイッチ** で物理 NIC カードに接続されていることを確認して、接続されていなければ NIC カードを設定してください。**仮想スイッチ** ドロップダウンメニューで適切な NIC カードを線タックして、**適用** をクリックします。
5. **Hyper-V マネージャー** メニューで、アプライアンス VM を右クリックし、次の手順を実行します。
 - a. **接続** をクリックし、**起動** をクリックします。
アプライアンスの選択した仮想ハードディスクで新たに作成した仮想マシンがカーネルパニックの例外で起動しない場合は、仮想マシンの設定を編集して、該当仮想マシンの動的メモリオプションを有効にしてください。

管理ユーザーとしてのログイン

OMIMSSC が起動したら、次のタスクを実行します。

 **メモ:** すべてのサービスが開始されるように、5分間待ってから **Admin** としてログインすることを推奨します。

1. **localhost** ログイン に admin と入力します。
2. **新しい管理者パスワードを入力** にパスワードを入力します。
3. **新しい管理者パスワードを確認してください** にパスワードを再入力し、**Enter** を押して続行します。
黒のコンソール ウィザードが表示されます。

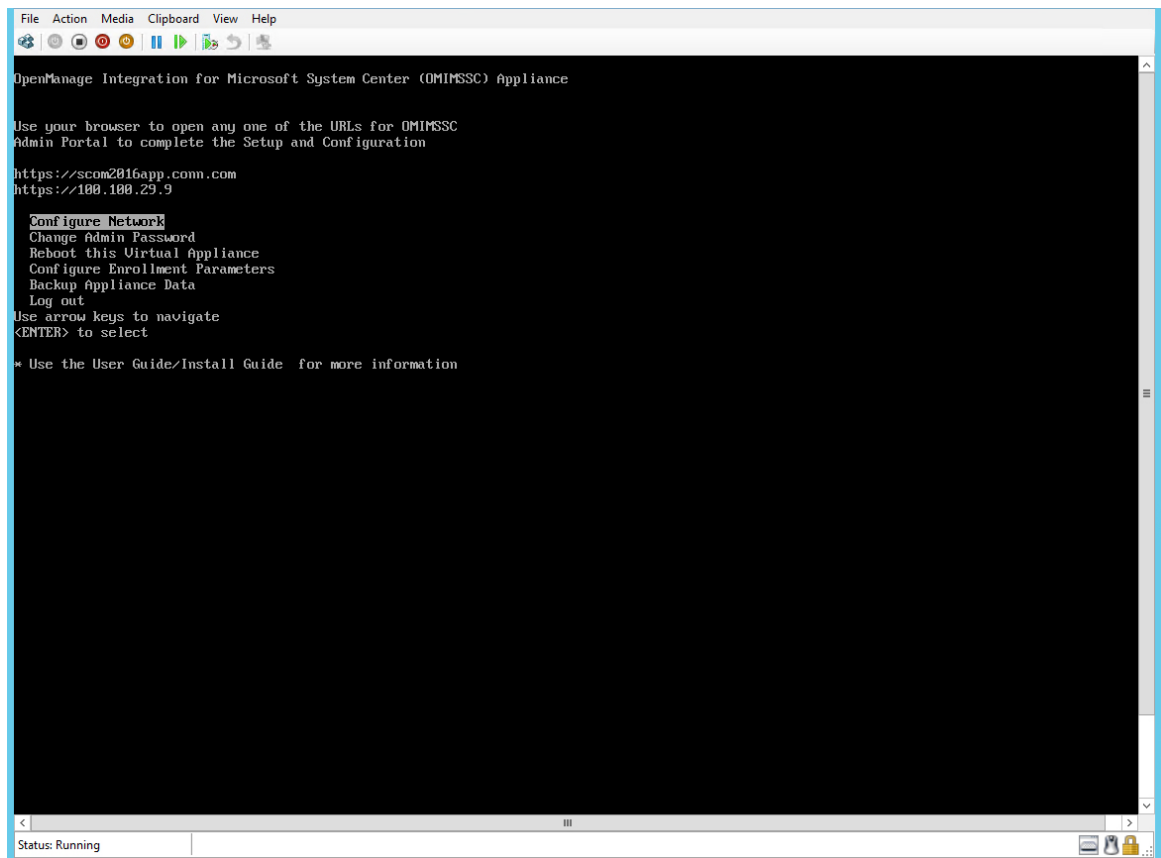


図 1. 黒のコンソールウィザード

4. アプライアンスで、ネットワークの設定を選択し **Enter** を押して、次のサブステップを実行します。

- a. 接続の編集を選択し、**Enter** を押します。
- b. 編集するイーサネット接続を選択し、**編集**を選択して **Enter** を押します。
- c. **IPv4 設定** > <表示> を選択して、**Enter** を押します。
- d. **DNS サーバ** で DNS の IP アドレスを入力し、**OK** を押します。
- e. **バック** を選択して、**Enter** を押します。
- f. **システムホスト名の設定** を選択して **ENTER** を押します。
- g. **ホスト名** にホストの FQDN を入力し、**OK** を押します。(例: Hostname.domain.com)

メモ: デバイス構成 オプションを選択すると、アプライアンスの IP アドレスを変更できます。これ以降は、アプライアンスのホスト名を変更しないでください。

h. **終了** を押し、次に **Enter** を押します。

5. アプライアンスから、管理ポータル URL をメモします。

Dell EMC 設定管理パックのダウンロード

設定管理パックをダウンロードして Operations Manager にインポートすると、コンソールの登録を実行できます。管理パックは次の処理を行います。

- NFS クライアントを有効にする。
- リモート PowerShell を有効にする。
- ファイアウォールに WinRM ルールを追加する。
- WinRM のクライアントおよびサーバ認証を有効にする。

以上の処理は、Operations Manager が設定されている管理サーバで実行されます。

設定管理パックをダウンロードするには、次の手順を実行します。

- パスワードフィールドにパスワードを入力して、デフォルトの管理者として Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルにログインします。
- 左側のペインで **ダウンロード** を選択し、Dell EMC OMIMSSC 構成管理パックで **設定 MP** を **ダウンロード** をクリックします。

- 設定管理バックをダウンロードします。

管理バックをインストールするには、次の手順を実行します。

- Operations Manager コンソール を起動します。
 - 左側のペインで、**管理 > 管理バック > インストール済み管理バック** を選択します。
 - タスク **管理バックのインポート** を実行します。管理バックのインポート ウィザードが表示されます。
 - **追加** を選択してドロップダウンメニューで **ディスクから追加** をクリックし、管理バックがダウンロードされたフォルダにアクセスします。
 - ダウンロードしたファイルを選択して、**開く** をクリックします。
 - **Dell.EMC.OMIMSSC.Configuration.mp** ファイルを選択し、**インストール**、**閉じる** の順にクリックします。
- メモ:** Windows ログ > アプリケーション > **Operations Manager** の Windows イベントビューア に、イベント ID 71 の情報イベントが生成されます。このイベントには、管理サーバで設定される前提条件の詳細情報が含まれています。

Operations Manager コンソールの登録

登録前に、前提条件を満たしていることを確認してください。詳細については、「[Dell EMC Configuration Management Pack のダウンロード](#)」を参照してください。

Operations Manager コンソールを Dell EMC OMIMSSC に登録するには、次の手順に従います。

1. ブラウザを開き、アプライアンスの URL、またはアプライアンスの IP アドレスを入力して、Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルページを起動します。
管理ポータルのログインページが表示されます。
2. パスワードフィールドにパスワードを入力して、デフォルトの管理者として管理ポータルにログインします。
3. **設定 > コンソール登録、登録** の順にクリックします。
コンソール登録 ページが表示されます。
4. **名前** フィールドにコンソール名を入力します。
5. **説明** フィールドにコンソールの説明を入力します。
6. **サーバ FQDN** フィールドで、Operations Manager コンソールの管理グループ内の任意の管理サーバの FQDN を指定します。
7. **資格情報** ドロップダウンメニューから作成された Windows 資格情報プロファイルを選択します。
8. (オプション) **新規作成** をクリックして、Operations Manager コンソールにアクセスする Windows タイプの資格情報プロファイルを作成します。資格情報プロファイルの作成に関する詳細は、『*Dell EMC OpenManage Integration Version 7.1 for Microsoft System Center for Operations Manager User's Guide*』(Microsoft System Center の Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 ユーザーズガイド) を参照してください。
9. アプライアンスと Operations Manager 間の接続を確認するには、**テスト接続** をクリックします。
テスト接続に成功すると、「テスト接続に成功しました」というメッセージが表示されます。
10. **適用** をクリックして、登録プロセスを完了します。

登録が正常に完了すると、**コンソール登録** ページにコンソールが表示されます。管理グループ内に複数の Operations Manager コンソールがある場合、このプロセスによって管理グループ内のすべてのコンソールが登録されます。

- メモ:** 管理サーバが管理グループに追加または削除されている場合は、Operations Manager コンソールから MSSC との同期を実行して、Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルのコンソール登録ページに更新された情報を表示します。詳細については、『*Dell EMC OpenManage Integration version 7.1 for Microsoft System Center for Operations Manager (SCOM) User's Guide*』(Microsoft System Center for Operations Manager(SCOM)向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 ユーザーズガイド) の「**Dell EMC デバイスと登録された Operations Manager との同期**」を参照してください。

プロキシ MS の DellProxyMSGroup への追加および Dell プロキシ MS と OMIMSSC の同期

登録時には、**DellProxyMSGroup** という名前のグループが作成されます。Operations Manager でエージェント管理対象の Windows コンピュータとして検出されたプロキシ管理サーバは、グループ **DellProxyMSGroup** として Operations Manager に追加して、プロキシ MS と OMIMSSC の同期を実行する必要があります。

- メモ:** 次の手順を実行する前に、すべてのプロキシ MS に Operations Manager エージェントをインストールしてください。

DellProxyMSGGroup をアップデートするには、次の手順を実行します。

1. プロキシ MS 仮想マシンは Operations Manager で、エージェント管理対象の Windows コンピュータとして検出されます。詳細に関しては、technet.microsoft.com にある Operations Manager のマニュアルを参照してください。
2. OMIMSSC 管理ポータルに登録した後、OMIMSSC コンソールにログインします。
3. **オーサリング > グループ** の順に選択します。リストから **DellProxyMSGGroup** を選択します。
4. **DellProxyMSGGroup** を右クリックして、ドロップダウンリストから **プロパティ** を選択します。
5. **明示的メンバー** タブを選択し、**オブジェクトの追加/削除** をクリックします。**グループ作成ウィザード - オブジェクト選択** ウィザードが表示されます。
6. **検索対象** リストのドロップダウンメニューから **Windows コンピュータ** を選択し、このグループの一部となるようにして **検索** をクリックします。
7. Operations Manager で検出されたすべての Windows コンピュータが、**使用可能なアイテム** に表示されます。
8. プロキシ MS を選択し、**追加** をクリックしてから、プロパティウィザードで **OK** をクリックします。

メモ: プロキシ MS の DellProxyMSGGroup への追加後は、プロキシエージェントでの **iSM** 検出を無効にして、イベント ID 33333 が再生成されないようにする必要があります。

1. **オーサリング > 管理バックオブジェクト > オブジェクト検出** の順に選択します。
2. **検索対象** フィールドで、**iSM** を検索します。
3. **検出タイプ: Dell サーバ > Dell サーバの検出** の順に選択します。
4. **Dell サーバの検出** を右クリックして、**オーバーライド > オブジェクト検出のオーバーライド > 特定のグループ** の順に選択します。
5. **オブジェクトの選択** ウィザードが表示されます。
6. **DellProxyMSGGroup** を選択して **OK** をクリックすると、プロキシ MS での iSM 検出が無効になります。
 - **監視** ペインで、**Dell EMC OpenManage Integration Views > OpenManage Integration Dashboard** の順に選択します。
 - Operations Manager で Dell EMC OMIMSSC にログインします。
 - **監視** をクリックして任意のデバイスを選択し、次に **MSSC と同期** をクリックします。
 - デバイス検出をトリガーする前に、同期タスクが完了していることを確認し、一般的なログ中に「すべての管理サーバの取得処理完了」のメッセージを探します。詳細に関しては、「**ジョブの表示**」を参照してください。

Operations Manager からの Dell EMC OMIMSSC の起動

Operations Manager から Dell EMC OMIMSSC を起動するには、次の手順を実行します。

Operations Manager コンソールで、**監視 > Dell EMC > Dell EMC OpenManage Integration Views > OpenManage Integration Dashboard** の順にクリックします。

Dell EMC OMIMSSC のログインページが表示されます。

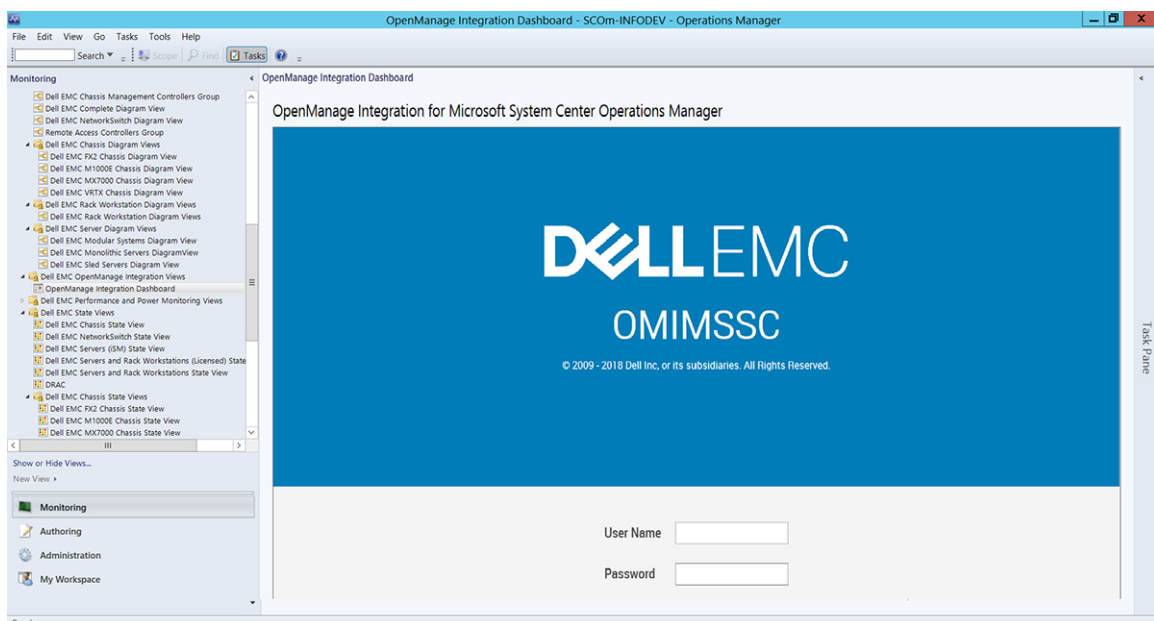


図 2. OMIMSSC ログインページ

- メモ:** OMIMSSC の起動時には、インターネットオプションで IE の設定を確認する必要があります。セキュリティ設定で信頼済みサイトのゾーンを選択し、インターネットオプションの詳細設定にある **暗号化されたページをディスクに保存しない** オプションをオフに変更します。
- メモ:** アプライアンス IP に変更があった場合は、**オーサリング > 監視** に移動します。検索対象のフィールドで、**アプライアンス > 管理サーバ > Dell EMC SDK オーバーライドアプライアンス IP** を検索し、オーバーライド値を **Dell EMC アプライアンス IP** の新しい IP に変更します。オーバーライドを Management Pack の **Dell EMC SDK アプライアンス IP オーバーライド** に保存します。

OMIMSSC とそのコンポーネントの管理

トピック：

- OMIMSSC の詳細情報の表示
- Dell EMC OMIMSSC ユーザー管理
- 登録済みコンソールの表示または更新
- Operations Manager アカウントの変更
- Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルに登録されているコンソールに使用する資格情報の変更
- Operations Manager コンソールの登録解除
- Dell EMC OMIMSSC アプライアンス仮想マシン (VM) の削除
- ジョブの表示

OMIMSSC の詳細情報の表示

OMIMSSC の詳細情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. ブラウザから Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルを起動します。
2. Operations Manager の Dell EMC OMIMSSC へのログイン時に使用した資格情報と同じ資格情報を使用して Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルにログインし、**アプライアンスの詳細情報** をクリックします。アプライアンスの IP アドレスとホスト名が表示されます。

Dell EMC OMIMSSC ユーザー管理

1. ブラウザから Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルを起動します。
2. アプライアンスへのログイン時に使用した資格情報と同じ資格情報を使用して管理ポータルにログインし、**OMIMSSC ユーザー管理** をクリックします。
Operations Manager にログインしているユーザーの詳細情報が表示されます。

登録済みコンソールの表示または更新

登録されているすべての Operations Manager コンソールを Dell EMC OMIMSSC で表示させるには、次の手順に従います。

1. 管理ポータルで **設定** をクリックし、**コンソール登録** をクリックします。
登録されているすべてのコンソールが表示されます。
2. 登録されているコンソールの最新リストを表示するには、**更新** をクリックします。

Operations Manager アカウントの変更

このオプションを使用すると、Dell EMC OMIMSSC での Operations Manager アカウントのパスワードを変更できます。

Operations Manager 管理者の認証情報は、Dell EMC OMIMSSC の管理ポータルから変更できます。

- Operations Manager アカウントに関しては、Dell EMC OMIMSSC でのアカウント変更より前に、Active Directory の認定資格を変更します。

Del EMC OMIMSSC 管理ポータルに登録されているコンソールに使用する資格情報の変更

Del EMC OMIMSSC 管理ポータルに登録されているコンソールに使用する資格情報を変更するには、次の手順を実行します。

1. Del EMC OMIMSSC 管理ポータルで **設定**、**コンソール登録** の順にクリックします。
登録されたコンソールが表示されます。
2. 編集するコンソールを選択し、**編集** をクリックします。
3. 新しい詳細情報を入力し、**終了** をクリックして変更を保存します。

Operations Manager コンソールの登録解除

Operations Manager コンソールの登録を解除するには、次の手順を実行します。

1. ブラウザを開いて、アプライアンスの URL を指定するか、アプライアンスの IP アドレスを入力して、Del EMC OMIMSSC 管理ポータルページを開きます。
Del EMC OMIMSSC 管理ポータルのログインページが表示されます。
2. 管理ポータルにデフォルトの**管理者**としてログインし、パスワードフィールドにパスワードを入力します。
3. 左側のペインで、**設定** を展開して、**コンソール登録** をクリックします。
登録されているすべてのコンソールが表示されます。
4. 登録解除するコンソールを選択し、**登録解除** をクリックして、アプライアンスへのコンソールの登録を削除します。管理グループ内に Operations Manager コンソールが複数ある場合、このプロセスではアプライアンスから管理グループ内のすべてのコンソールの登録が解除されます。
登録の解除が完了すると、アプライアンスを使用して監視されているすべてのデル管理パックと Del EMC デバイスが Operations Manager コンソールから削除されます。

メモ: 開始した登録解除の進行状況と詳細を確認するには、Del EMC OMIMSSC 管理ポータルにログインして、アプライアンスログを表示してください。ジョブおよびログセンターを選択して、**履歴** をクリックします。

メモ: Operations Manager が設定されている設定管理パックに適用された変更は、元に戻りません。適用された変更の詳細については、「[Del EMC 設定管理パックのダウンロード](#)」を参照してください。

メモ: 登録解除の開始時に Operations Manager コンソールにアクセスできないと、この処理を実行する前にコンソールをオンラインにすることを推奨するメッセージが表示されます。登録解除を続行するには、登録された Operations Manager コンソールでユーザーが明示的にクリーンアップを実行する必要があります。詳細については、「[登録解除中にアクセスできない Operations Manager コンソールの手動クリーンアップ手順](#)」を参照してください。

Del EMC OMIMSSC アプライアンス仮想マシン (VM) の削除

OMIMSSC アプライアンス VM を削除する前に、登録済みコンソールの登録解除を実行したことを確認してください。

OMIMSSC アプライアンス VM を削除するには、次の手順を実行します。


1. **Windows Server** の **Hyper-V** マネージャーで、アプライアンス VM を右クリックして **オフにする** をクリックします。
2. アプライアンス VM を右クリックして、**削除** をクリックします。

ジョブの表示

Del EMC OMIMSSC で作成されたすべてのジョブとそのステータス情報を表示できます。

ジョブを表示するには、次の手順を実行してください。

1. Del EMC OMIMSSC コンソールで、**ジョブおよびログセンター** をクリックします。
2. **実行中**、**スケジュール済み**、**履歴**、**一般**など、ジョブの特定のカテゴリを表示するには、それぞれのタブをクリックします。
ジョブに含まれているすべてのサーバを表示するには、ジョブを展開します。さらに展開すると、ジョブのログメッセージが表示されます。

 **メモ:** すべてのジョブに関連する一般的なログメッセージは、汎用タブにはリストされますが、実行中または履歴タブにはリストされません。

3. (オプション) フィルタを適用して、さまざまなカテゴリのジョブを表示できます。ステータス列にステータスを表示することもできます。

Operations Manager 向け Dell EMC Server Management Pack スイートのインストール

本項では、Operations Manager (SCOM) 向け Dell EMC Management Pack スイートのバージョン 7.1 をインストール、アップグレード、アンインストールする方法について説明します。

トピック：

- 前提条件
- .exe ファイルを使用した Dell EMC Server Management Pack のインストール
- 複数の管理サーバへの Dell EMC Server Management Pack のインストール
- Dell EMC Server Management Pack Suite の旧バージョンからのアップグレード
- Operations Manager 2012 R2 から Operations Manager 2016 へのアップグレード
- 以前の Operations Manager からのアップグレード
- Dell EMC Server Management Pack スイートでの修復オプションの使い方
- Dell EMC Server Management Pack のアンインストール
- トラップ監視とトラップベースのユニット監視のための Operations Manager の設定

前提条件

管理サーバに Operations Manager 向け Dell EMC Server Management Pack スイートをインストールするには、まず次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- 次のいずれかのバージョンの Operations Manager がインストールされていること。
 - 2016
 - ① **メモ:** Nano Windows Server のオペレーティングシステムを実行しているシステムでは、Microsoft のサポート技術情報記事 KB3190029 で提供されている Update Rollup 1 for Microsoft System Center 2016 - Operations Manager エージェントパッケージを適用します。詳細については、support.microsoft.com/kb/3190029 を参照してください。
 - 2012 R2
- Microsoft .NET バージョン 3.5 SP1
- Dell EMC Server Management Pack Suite がインストールされている管理サーバ上でのローカル管理者特権。
- 次の Windows ファイアウォールルールを有効にします。
 - Operations Manager SNMP 応答
 - Operations Manager SNMP Trap Listener
 - Operations Manager ping 応答
- Windows PowerShell 3.0 以降 (システムで Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムを実行している場合)

.exe ファイルを使用した Dell EMC Server Management Pack のインストール

1. Dell_EMV_Server_Management_Pack_v7.1_Axx.exe (xx は Dell Server Management Pack のリリース番号です) を Dell.com/support からダウンロードします。
2. 自己解凍 zip ファイルの内容を抽出するには、.exe ファイルを実行します。
3. 解凍した場所から Dell_EMV_Server_Management_Pack.exe ファイルを起動します。**Dell EMC Server Management Pack Suite** のようこそ画面が表示されます。
4. **次へ** をクリックします。
ライセンス契約が表示されます。

5. インストールを続行するには、ライセンス条項を読んでから承諾して、**次へ** をクリックします。
6. 必要に応じて、デフォルトのインストールフォルダの場所を変更するために **変更** をクリックし、**次へ** をクリックします。
7. **インストール** をクリックします。
8. **Install Shield** ウィザードの完了画面で **終了** をクリックします。

デフォルトで管理パックは次の場所にインストールされます。C:\Program Files\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.1

次の監視機能は、Dell EMC Server Management Pack のインストール後に自動的に Operations Manager にインポートされます。

- Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視機能
- すべての前提条件が満たされている場合 (iSM ベースのみ) — Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能。
- Dell EMC Feature Management Pack の [Dell EMC Feature Management Dashboard](#) が、Operations Manager コンソールの **監視** > **Dell EMC** に表示されます。監視機能のインポートについては、個別の監視セクションを参照してください。

メモ: Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能を使用するには、Dell EMC PowerEdge サーバの監視に使用するすべての管理サーバで実行されるインストーラが必要です。

インストール情報を含むログファイルは、Dell EMC Server Management Pack のインストール後に生成されます。ログファイルは、Dell EMC Server Management Pack.exe が解凍されたフォルダにあります。

複数の管理サーバへの Dell EMC Server Management Pack のインストール

Dell EMC Server Management Pack を複数の管理サーバにインストールするには、次の手順に従います。

1. **Dell EMC Feature Management Dashboard** を使用して管理パックをインポートするか、または任意の管理サーバで Operations Manager の管理パックのインポートウィザードを使用して管理パックをインポートします。Operations Manager は、管理パックをすべての管理サーバに自動的に配布します。
2. トラップを受信するには、Dell EMC デバイスの検出のために使用される管理サーバを、Dell デバイスのトラップ送信先リストに追加します。

メモ: トラップの送信先は、Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能で検出され監視される Dell EMC デバイス用に自動的に設定されます。

ホスト OS からの iDRAC アクセス機能で検出されたデバイスからの SNMP アラートを受信できるようにするには、管理下ノードで SNMP サービスをインストールし、SNMP Services で管理サーバの IP アドレスをトラップの送信先として設定する必要があります。詳細については、『*Dell EMC Server Management Pack Version 7.1 for Microsoft System Center Operations Manager User's Guide*』(Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.1 ユーザーズガイド) の「ホスト OS を介した iDRAC アクセスの監視」を参照してください。

Dell EMC Server Management Pack Suite の旧バージョンからのアップグレード

Dell EMC Server Management Pack バージョン 7.0 を使用している場合は、Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 または Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.1 のどちらにでも、インストーラを使用してアップグレードできます。

Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.0 から Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.1 へのアップグレード

インストーラは Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.0 からインストールされた機能を検出し、機能管理パックをバージョン 7.1 に自動的にアップグレードします。

- ① **メモ:** アップグレード完了後、インストーラが再起動するためのプロンプトメッセージを表示する場合がありますが、再起動は不要なため無視してください。
- ① **メモ:** このアプローチでのアップグレードに対応した機能を特定するには、表 2「**Dell EMC OMIMSSC および、Dell EMC Server Management Pack でサポートされる監視機能**」を参照してください。
- ① **メモ:** 確認されるアラートは Dell EMC PowerEdge サーバ、ラック型ワークステーション、および Dell EMC シャーシに対して生成されるものです。
- ① **メモ:** 低パフォーマンスメトリックは、アップグレード後も保持されます。

Dell EMC Server Management Pack Suite の旧バージョンから Dell EMC OMIMSSC バージョン 7.1 へのアップグレード

Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.0 から Dell EMC OMIMSSC バージョン 7.1 にアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. Hyper-V 上の仮想マシンに .vhd ファイルを導入して、OMIMSSC アプライアンスをセットアップします。
2. OMIMSSC で Operations Manager の登録を実行します。管理パックがアップグレードされるまで、数分待ちます。
 - ① **メモ:** 必要なプロキシ MS の数については、「[プロキシ MS の概要](#)」を参照してください。
 - ① **メモ:** プロキシ MS でサポートされるデバイス数は 250 です。詳細については、「[サポートされる拡張性での導入シナリオを使用した管理サーバおよびプロキシ MS の設定計画](#)」を参照してください。
3. **Dell EMC OpenManage Integration Dashboard** を起動して、各デバイスビューから **MSSC と同期** を実行し、Operations Manager コンソールで検出されたデバイスを同期します。たとえば、Operations Manager で検出された SMASH デバイスを同期するには、**Dell EMC OpenManage Integration Dashboard** の **サーバビュー** で **MSSC と同期** ボタンをクリックします。**MSSC と同期** を実行すると、DellProxyMSGGroup に追加されたプロキシ MS の詳細も同期されます。詳細については、『Dell EMC OpenManage Integration Version 7.1 for Microsoft System Center for Operations Manager (SCOM) User's Guide』(Microsoft System Center Operations Manager (SCOM) 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 ユーザーズガイド)の「[プロキシ MS の DellProxyMSGGroup への追加と Dell Proxy MS と OMIMSSC との同期](#)」と「[Dell EMC デバイスと登録された Operations Manager との同期](#)」を参照してください。
 - ⚠ **注意:** 多数のデバイスに拡張する場合は、必要な数のプロキシ MS を追加するようにしてください。
- ① **メモ:** Dell CMC ログインアカウントプロファイルが、Dell モジュラーシャーシの Run As アカウントに関連付けられていることを確認してください。
- ① **メモ:** 7.0 ビューで WSMAN プロトコルによって検出された Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーション監視機能が生成したパフォーマンスメトリックは保存されません。

バージョン 6.3 以前のバージョンからのアップグレード

Dell EMC Dell Server Management Pack Suite バージョン 6.3 以前からバージョン 7.1 へのアップグレードはサポートされていません。

Operations Manager 2012 R2 から Operations Manager 2016 へのアップグレード

Operations Manager 2016 にアップグレードしても、既存の Dell EMC Server Management Pack の機能と機能性には影響しません。Operations Manager 2012 R2 から Operations Manager 2016 へのアップグレードの詳細については、[Technet.microsoft.com/en-us/system-center-docs/om/deploy/upgrading-to-system-center-2016-operations-manager](http://technet.microsoft.com/en-us/system-center-docs/om/deploy/upgrading-to-system-center-2016-operations-manager) を参照してください。

以前の Operations Manager からのアップグレード

Microsoft のガイドラインに従って、以前のバージョンから Operations Manager にアップグレードできます。サポートされるアップグレードシナリオについては、Microsoft System Center のマニュアルを参照してください。

Operations Manager 2012 SP1 から Operations Manager 2012 R2 へのアップグレード

Operations Manager 2012 R2 にアップグレードしても、既存の Dell EMC Server Management Pack Suite の機能には影響がありません。Operations Manager 2012 SP1 から Operations Manager 2012 R2 へのアップグレードについての情報は、technet.microsoft.com/en-us/library/dn249707.aspx を参照してください。

Operations Manager 2012 から Operations Manager 2012 SP1 へのアップグレード

Operations Manager 2012 SP1 にアップグレードしても、既存の Dell EMC Server Management Pack の機能と機能性には影響しません。Operations Manager 2012 から Operations Manager 2012 SP1 へのアップグレードについての情報は、technet.microsoft.com/en-us/library/jj899854.aspx を参照してください。

Operations Manager 2007 R2 から Operations Manager 2012 へのアップグレード

Operations Manager 2007 R2 から Operations Manager 2012 へのアップグレード方法の詳細に関しては、technet.microsoft.com/en-us/library/hh476934.aspx を参照してください。

メモ: 機能管理ワークフローが最適レベルで動作していることを確実にするため、Operations Manager 2012 へのアップグレード後はルート管理サーバを再起動してください。

Dell EMC Server Management Pack スイートでの修復オプションの使い方

修復 オプションでは、Dell EMC Server Management Pack スイートのインストール中に発生したインストールエラーを修復することができます。

1. 解凍した場所から `Dell_EM_C_Server_Management_Pack.exe` ファイルを実行します。
Dell EMC Server Management Pack の ようこそ 画面が表示されます。
2. **次へ** をクリックします。
プログラムメンテナンス 画面が表示されます。
3. **修復** を選択し、**次へ** をクリックします。
プログラム修復の準備完了 画面が表示されます。
4. **インストール** をクリックします。
進捗状況画面にインストールの進捗状況が表示されます。インストールが完了すると、**インストール完了** 画面が表示されます。
5. **終了** をクリックします。

メモ: 修復 オプションは、コントロールパネル のプログラムの追加と削除 からは使用できません。

Dell EMC Server Management Pack のアンインストール

Dell EMC Server Management Pack は、Windows のコントロールパネルから、または Dell EMC Server Management Pack の.exe ファイルの **削除** オプションを使用してアンインストールできます。

登録解除を実行して Operations Manager コンソールをアプライアンスに登録することにより、Dell EMC 管理パックを削除できます。詳細については、「[Operations Manager コンソールの登録解除](#)」を参照してください。

.exe ファイルを使用した Dell EMC Server Management Pack の削除

.exe ファイルを使用して Dell EMC Server Management Pack を削除するには、次の手順に従います。

1. 解凍した場所から `Dell EMC Server Management Pack.exe` ファイルを実行します。
Dell EMC Server Management Pack の ようこそ 画面が表示されます。
2. **次へ** をクリックします。
3. **削除** を選択してから **次へ** をクリックします。
プログラムの削除 画面が表示されます。
4. **削除** をクリックします。
Dell EMC Server Management Pack が削除されます。

メモ: Dell EMC Server Management Pack をアンインストールすると、Operations Manager にインポートされた管理パックが削除されます。Operations Manager から管理パックを削除するには、Technet.microsoft.com/en-us/library/cc974489.aspx を参照してください。

Windows のコントロールパネルを使用した Dell EMC Server Management Pack のアンインストール

Windows のコントロールパネルを使用して Dell EMC Server Management Pack をアンインストールするには次の手順を実行します。

1. スタート > コントロールパネル > プログラムのアンインストール の順にクリックします。
2. **Dell EMC Server Management Pack** を右クリックし、**アンインストール** をクリックします。
3. 画面の指示に従って、アンインストールを完了します。

トラップ監視とトラップベースのユニット監視のための Operations Manager の設定

Operations Manager 2012 または Operations Manager 2016 でトラップ、およびトラップベースのユニットを監視するには、次の手順を実行します。

1. Operations Manager を起動して、**管理** をクリックします。
2. **管理** ペインで、**Run As 設定** > **プロファイル** と移動します。
3. 使用可能なプロファイルのリストから、**SNMP 監視アカウント** を右クリックし、**プロパティ** をクリックします。
はじめに 画面が表示されます。
4. **次へ** をクリックします。
Run As プロファイルの一般プロパティの指定 画面が表示されます。
5. **次へ** をクリックします。
Run As アカウント 画面が表示されます。
6. **追加** をクリックします。
Run As アカウントの追加 画面が表示されます。
7. **Run As アカウント** ドロップダウンリストからコミュニティ文字列を選択して、デバイスを検出します。

メモ: 存在しない場合は、コミュニティ文字列 **Run As アカウント** を作成します。詳細については、「[SNMP 監視のための Run As アカウントの作成](#)」を参照してください。

メモ: デバイスの検出に複数の Run As アカウントを使用している場合は、各デバイスを関連する Run As アカウントに関連付けます。詳細については、「[複数 Run As アカウントの関連付け](#)」を参照してください。

8. **OK** をクリックします。
9. ウィザードを完了したら、**閉じる** をクリックします。

SNMP 監視のための Run As アカウントの作成

1. Operations Manager を起動して、**管理** をクリックします。
2. **管理** ペインで、**Run As 設定** > **アカウント** と移動します。
3. **アカウント** を右クリックして、**Run As アカウントの作成** をクリックします。
はじめに 画面が表示されます。

メモ: ネットワーク監視用の Run As アカウントの詳細については、Microsoft TechNet サイト (technet.microsoft.com/en-us/library/hh212920.aspx) を参照してください。

4. **次へ** をクリックします。
一般プロパティ画面が表示されます。
5. **Run As アカウントのタイプ**: ドロップダウンリストから、**コミュニティ文字列** を選択します。
6. コミュニティ文字列を **表示名**: テキストボックスに入力して、**次へ** をクリックします。
7. コミュニティ文字列テキストボックスに正確なコミュニティ文字列を入力して、**次へ** をクリックします。
配布セキュリティ画面が表示されます。
8. **低セキュリティ - 管理下コンピューターのすべてに資格情報を自動配布する** オプションを選択して、**作成** をクリックします。
9. ウィザードを完了したら、**閉じる** をクリックします。

複数 Run As アカウントの関連付け

1. 「**トラップ監視とトラップベースのユニット監視のための Operations Manager の設定**」の手順 1~6 に従います。
2. **Run As アカウントの追加** 画面で、**選択したクラス**、**グループ**、または**オブジェクト** オプションを選択します。
3. **選択 > クラス** をクリックします。
クラス検索画面が表示されます。

メモ: また、コミュニティ文字列の **Run As アカウント** を、オブジェクトおよびグループに関連付けることもできます。詳細については、technet.microsoft.com にある Microsoft の Operations Manager マニュアルを参照してください。
4. **フィルタ (オプション)** のテキストボックスにクラス名を入力します。デバイスのタイプに応じて、**Dell EMC サーバ**、**Dell CMC/OME-M**、または **Dell EMC DRAC/MC** を入力します。
5. **検索** をクリックします。
6. **使用可能なアイテム** で、追加するクラスを選択します。
7. **OK** をクリックします。
8. **Run As アカウントの追加** 画面で、**OK** をクリックします。
9. 管理したいクラスの各タイプに、手順 2~8 を繰り返します。
10. **保存** をクリックします。
11. ウィザードを完了したら、**閉じる** をクリックします。

Dell EMC Feature Management Dashboard

本項では、**Dell EMC Feature Management Dashboard** を使用した監視機能のインストール、アップグレード、および削除について説明します。

監視機能を Operations Manager にインポートするには、**Dell EMC Feature Management Dashboard** を使用するか、Operations Manager の **管理パックのインポート ウィザード** を使用して、監視機能管理パックをインポートします。監視機能の高度な微調整には、**Dell EMC Feature Management Dashboard** を使用します。詳細については、該当する監視機能の、**Dell EMC 監視機能タスク** を参照してください。

トピック：

- [Dell EMC Feature Management Dashboard](#)
- [Operations Manager への管理パックのインポート](#)

Dell EMC Feature Management Dashboard

Dell EMC Feature Management Dashboard には、Dell EMC Server Management Pack または Dell EMC OMIMSSC アプライアンスを使用して、さまざまな Dell EMC デバイスをモニタリングする機能を設定する機能があります。モニタリングの対象には、Dell EMC PowerEdge サーバー、Dell EMC Precision ラック、Dell Remote Access Controllers (DRAC)、Dell EMC ネットワーク スイッチ、Dell EMC ブランドまたは Dell EMC OEM 用サーバーのハードウェア モニタリング、Dell EMC Microsoft Storage Spaces Direct Ready ノード、そして PowerEdge FX2、PowerEdge VRTX、PowerEdge M1000E、PowerEdge MX7000 などの Dell EMC シャーシがあります。

- [Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視機能](#)
- [Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 \(ライセンス対象 \) 機能](#)
- [DRAC 監視機能](#)
- [Dell EMC シャーシ 監視機能](#)
- [Dell EMC シャーシ モジュール型サーバー 関連機能](#)
- [Dell EMC ネットワーク スイッチ 監視機能](#)

Dell EMC Feature Management Dashboard を使用して、監視機能をインポート、アップグレード、および削除することが可能です。

Dell EMC Feature Management Dashboard を使用した監視機能のインポート

Dell EMC Feature Management Dashboard には、使用可能な Dell EMC Server Management Pack の監視機能と Dell EMC OMIMSSC アプライアンスの機能が表示され、特定機能に必要な管理パックのインポート、アップグレード、削除を自動設定できます。

分散セットアップ (Operations Manager 2012 の分散リソースプールなど) では、すべての機能管理アクティビティをホストするために、Dell EMC Server Management Pack が最初にインストールされた管理サーバが選択されます。

監視機能をインポートするには、次の手順を実行します。

1. Operations Manager コンソール を起動します。
2. ナビゲーション ペインで、**監視** をクリックします。
3. **監視 > Dell EMC > Dell EMC Feature Management Dashboard** の順に展開します。

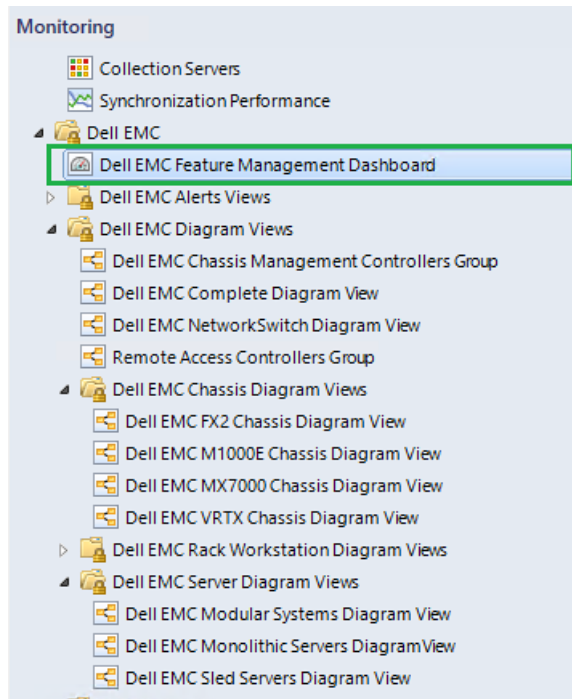


図 3. 監視ペイン

Dell EMC Feature Management Dashboard ペインには、インストールされている Dell EMC 監視機能、現在使用中のバージョン、アップグレード可能なバージョン、監視レベル、ノードの合計数、必要なライセンスのリストが表示されます。

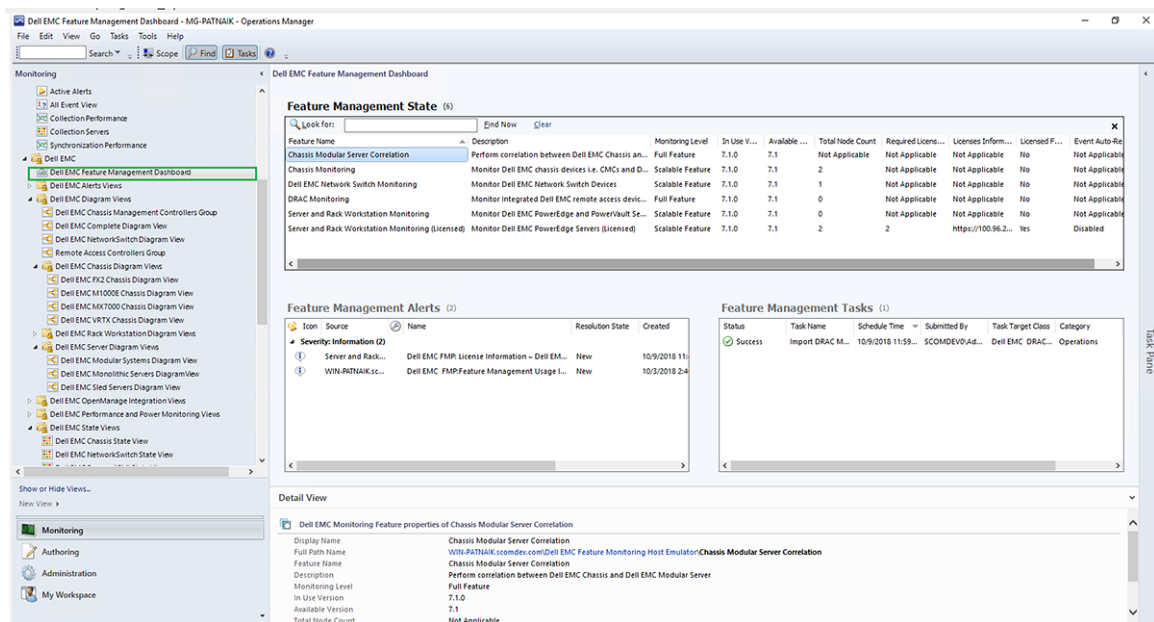


図 4. Dell EMC Feature Management Dashboard

4. インストールする監視機能を選択します。
5. タスク ペインの下にある Dell EMC 監視機能タスクを展開します。

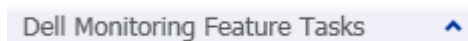


図 5. Dell EMC 監視機能タスク

6. タスクをクリックして、機能をインポートします。
7. タスクの実行画面では、事前定義された RunAs アカウントの使用オプションが選択されていることを確認します。

8. **実行** をクリックします。
9. タスクが正常に完了したら、**閉じる** をクリックします。

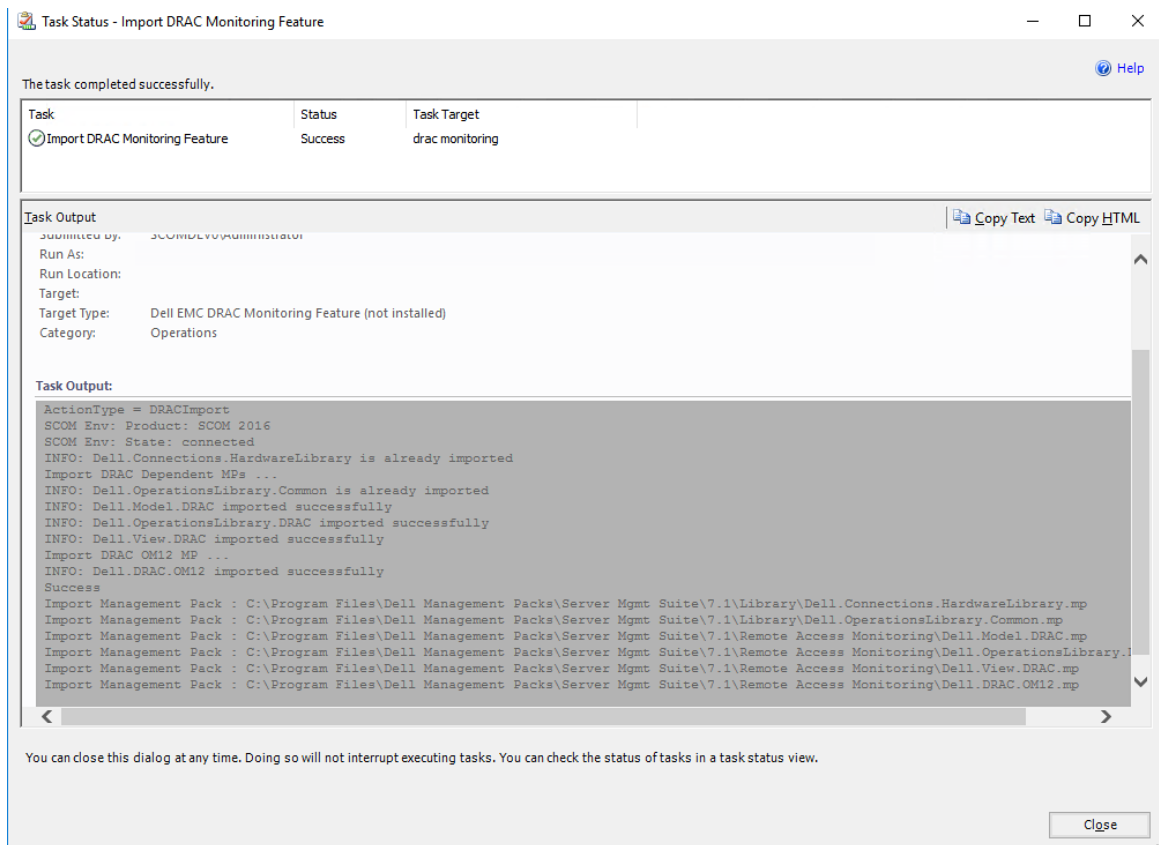


図 6. タスク状態

10. 有効にする各監視機能で、手順 4~9 を繰り返します。

メモ: Dell EMC Feature Management Dashboard で別のタスクを開始する場合は、前のタスクが完了するのを待ってください。

Dell EMC Feature Management Dashboard を使用した Dell EMC 監視機能のアップグレード

1. Operations Manager コンソール を起動します。
2. **監視** をクリックします。
3. **Dell EMC > Dell EMC Feature Management Dashboard** の順にクリックします。
4. アップグレードする監視機能を選択します。
5. タスク ペインの下にある **Dell EMC 監視機能タスク** を展開します。
6. 実行するアップグレードタスクをクリックします。
7. タスクの**実行** アップグレード 画面で、**事前定義された RunAs アカウントの使用** オプションを選択します。
8. **実行** をクリックします。

注意: データロスにつながるオーバーライドを行う必要がある依存性または関連付けがある場合、該当するメッセージが表示されてタスクは失敗します。タスクを続行するには、オーバーライドをクリックして、警告/エラーの自動解決のオーバーライドを **True** に設定します。詳細については、「**Dell EMC Feature Management Dashboard タスクが失敗する**」を参照してください。

9. タスクを完了したら、**閉じる** をクリックします。

アップグレードプロセス中に、すべてのオーバーライド（検出、ユニット監視、ルールに対するあらゆるカスタマイズ）が、Dell Server Management Pack Suite の旧バージョンから Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.1 に継承されます。

表 9. Dell EMC Feature Management Dashboard を使用した Dell EMC 監視機能のカスタマイズ - 拡張可能機能 vs 詳細機能

機能	拡張性	詳細
Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視	サーバおよびコンポーネントグループレベルでのインベントリおよび正常性監視	コンポーネント（メモリ、プロセッサ、センサー、ネットワークインタフェース、ストレージコントローラ、ディスク、ボリューム）の詳細なインベントリおよび監視。BIOS 情報も表示。
Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視（ライセンス対象）	<ul style="list-style-type: none"> 個々のコンポーネントまでのインベントリ。 サーバ、ラック型ワークステーション、コンポーネントグループレベルでの正常性監視。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々のコンポーネントのインベントリおよび正常性監視。 電力、温度、ネットワークインタフェースカードのプロセッサ、メモリ、1秒あたりのコンピュータの使用量（CUPS）、PCIe SSD の摩耗レベルのメトリックと、IO パフォーマンスのメトリックを表示。
Dell EMC シャーシ監視	<ul style="list-style-type: none"> シャーシインベントリ シャーシスロットサマリ シャーシの正常性監視 	個々のシャーシコンポーネントのインベントリおよび正常性監視。
DRAC 監視	<ul style="list-style-type: none"> iDRAC インベントリ iDRAC の正常性監視 	適用なし。
Dell EMC シャーシモジュラーサーバ関連	モジュラーサーバとシャーシを相関（モジュラーサーバ内にあるシャーシからコンポーネントまでのインベントリと正常性を表示）	適用なし。
Dell EMC ネットワークスイッチ監視	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークスイッチインベントリ ネットワークスイッチの正常性監視 	個々のネットワークスイッチコンポーネントのインベントリおよび正常性監視。

Dell EMC Feature Management Dashboard を使用した Dell EMC 監視機能の削除

監視機能を削除するには、**Dell EMC Feature Management Dashboard** を使用します。いずれかの監視機能を削除する前に、開いているすべてのアラートを閉じるか解決します。監視機能の削除中、**Dell EMC Feature Management Dashboard** はすべてのオーバーライドの参照をインストールフォルダのバックアップとしてエクスポートしますが、カスタムグループ情報およびオーバーライドのインスタンスレベル情報は、今後再使用することはできません。

監視機能を削除するには、次の手順を実行します。

1. Operations Manager を起動し、**監視** をクリックします。
2. **監視** ペインで、**Dell EMC > Dell EMC Feature Management Dashboard** と移動します。
Dell EMC Feature Management Dashboard ペインに、Operations Manager 内に存在する監視機能のリストが表示されます。
3. 削除する監視機能を選択します。
4. タスク ペインの下にある **Dell EMC 監視機能タスク** を展開します。
5. **機能の削除** をクリックして、監視機能を削除します。
たとえば、**Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視** 機能を削除するには、タスク ペインの下にある **監視機能の削除** をクリックします。
6. タスクの実行 - 機能の削除 画面で、事前定義された **Run As アカウント** を使用する オプションを選択します。
7. **実行** をクリックします。

注意: データロスにつながるオーバーライドを行う必要がある依存性または関連付けがある場合、該当するメッセージが表示されてタスクは失敗します。タスクを続行するには、オーバーライドをクリックして、警告/エラーの自動解決のオーバーライドを **True** に設定します。詳細については、「**Dell EMC Feature Management Dashboard タスクが失敗する**」を参照してください。

8. タスクが終了したら、**閉じる** をクリックします。

メモ: カスタムグループで参照されるオーバーライドまたはインスタンスがある場合、**Dell EMC Feature Management Dashboard** で監視機能の削除タスクを実行すると失敗することがあります。このような場合は、カスタムグループに関連付けられたオーバーライドまたはインスタンスを削除してください。

Operations Manager への管理パックのインポート

管理パックのインポートには、Operations Manager の管理パックのインポートウィザードを使用します。

1. Operations Manager コンソール を起動します。
2. ナビゲーションペインで、**管理** をクリックします。
3. **管理パック** をクリックして、**管理の概要** で **管理パックをインポート** を選択します。
4. **管理パックの選択** 画面で、**追加 ディスクから追加** とクリックします。
5. **Dell EMC Server Management Pack** をインストールした場所の詳細を入力するか、そこまで移動します。
デフォルトディレクトリにインストールする場合、管理パックは C:\Program Files\Server Mgmt Suite\Dell Management Packs\7.1 にあります。
6. インポートする管理パックを選択し、**開く** をクリックします。
管理パックのインポート 画面が表示され、**インポートリスト** に管理パックが表示されます。
7. **インストール** をクリックします。

Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.1 でサポートされる監視機能

このセクションのトピックでは、Operations Manager 用の DSMPS バージョン 7.1 でサポートされる監視機能について説明します。

トピック：

- Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視機能
- Operations Manager 向け DRAC 監視機能

Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視機能

Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視機能は、対応 Windows OS が実行されている次のインストールデバイスを使用して OpenManage Server Administrator (OMSA) を使用して検出および監視します。

- PowerEdge モジュラーおよび Dell EMC PowerEdge モノリシックサーバ
- PowerVault サーバ
- Dell OEM Ready サーバ
- Dell Precision ラック

これらのデバイスのインベントリと監視は、サーバの OpenManage Server Administrator (OMSA) から実行できます。これはライセンス不要の監視機能です。

対応 OMSA バージョンの詳細については、「*Dell EMC OpenManage Integration version 7.1 for Microsoft System Center for Operations Manager (SCOM) Release Notes*」(Microsoft System Center Operations Manager (SCOM) 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 リリースノート) を参照してください。

Dell EMC Server Management Pack スイートでは、Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーション監視拡張機能が Operations Manager に自動的にインポートされます。

管理パック

Dell EMC Server Management Pack Suite 管理パックが正常にインポートされ、Operations Manager コンソールで OMIMSSC が登録されると、必要な管理パックがインポートされ、Operations Manager コンソールの管理 ペインに表示されます。詳細については、「[Operations Manager への管理パックのインポート](#)」を参照してください。

表 10. Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視および管理パック

特長	管理パックのデフォルト場所	管理パック
Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視	ライブラリ %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt\7.1\Library 拡張可能管理パックおよび詳細管理パック %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt\7.1\Server Monitoring	ライブラリ <ul style="list-style-type: none"> • Dell.Connections.HardwareLibrary.mp • Dell.OperationsLibrary.Server.mp 拡張可能機能 <ul style="list-style-type: none"> • OMSA を使用して検出される Dell EMC サーバまたはラック型ワークステーションの場合 <ul style="list-style-type: none"> ○ Dell.Model.Server.mp ○ Dell.WindowsServer.Scalable.mp ○ Dell.View.Server.mp ○ (オプション) Dell.WindowsServer.InformationAlertsOn.mp

表 10. Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視および管理パック

特長	管理パックのデフォルト場所	管理パック
		<p>メモ: Dell.WindowsServer.InformationAlertsOn.mp (情報アラートを受信したい場合にのみインポート)</p> <p>詳細機能</p> <ul style="list-style-type: none"> Dell.WindowsServer.Detailed.mp およびすべての拡張可能管理パック

設定の前提条件

Dell EMC デバイスを検出するための、Microsoft System Center Operations Manager (SCOM) エージェント向け Dell EMC OpenManage Integration 7.1 への接続。

管理サーバー (MS) の要件

対応オペレーティングシステム

次に、管理サーバ用に Operations Manager がサポートするオペレーティングシステムをリストします。

- Operations Manager 2016 については、technet.microsoft.com/en-us/library/dn997301%28v=sc.16%29.aspx を参照してください。
- Operations Manager 2012 R2、Operations Manager 2012 SP1 および、Operations Manager 2012 については technet.microsoft.com/en-us/library/hh205990.aspx を参照してください。

ソフトウェア要件

表 11. ソフトウェアの前提条件

ソフトウェア	目的
(オプション) OpenManage Server Administrator (Server Administrator) からの DRAC ツール	Dell EMC サーバおよび、ラック型ワークステーションの iDRAC とその NIC のインベントリと監視を実行します。
(オプション) Dell License Manager (iDRAC 7 以降のシステムのみ)	Dell License Manager コンソールを起動し、ライセンスを展開してレポートを収集して、管理サーバに Dell License Manager をインストールします。詳細については、 dell.com/support/home で『Dell License Manager User's Guide』(Dell License Manager ユーザーズガイド) を参照してください。
(オプション) OpenManage Power Center	Dell OpenManage Power Center コンソールを起動するには、次の手順を実行します。Operations Manager コンソールを使用してデータセンターの電力消費量と温度を監視および管理するには、管理サーバに OpenManage Power Center をインストールします。詳細については、 dell.com/support/home で『Dell OpenManage Power Center Installation Guide』(Dell OpenManage Power Center インストールガイド) を参照してください。
(オプション) ベースボード管理コントローラ (BMC) 管理ユーティリティ	Dell の管理下システムにおいて、リモート電源制御タスク、または LED 識別制御タスクを実行します。

- メモ:** DRAC ツール、OpenManage Server Administrator (Server Administrator)、BMC 管理ユーティリティ、Dell License Manager には『Dell Systems Management Tools and Documentation』(Dell システム管理ツールおよびマニュアル) メディアからアクセスするか、dell.com/support からダウンロードします。

管理サーバアクションアカウント (MSAA)

表 12. MSAA 特権

特長	ユーザー特権
DRAC 検出と、対応する DRAC コンソール起動	管理者またはパワーユーザー
ESM ログのクリア	管理者またはパワーユーザー あるいは、MSAA に標準のユーザー特権が付与されている場合、ユーザーは 事前定義された RunAs アカウントの使用 を選択する代わりに、パワーユーザー以上の特権のあるタスク資格証明を入力して、 ESM ログのクリア タスクを実行できます。

管理下システム要件

サポートされている Server Administrator のバージョン (Server Administrator Storage Management Service を含む) を管理下システムにインストールします。

- ① **メモ:** 管理下システムで Server Administrator をアップグレードまたはアンインストールする場合、管理下システムの [アラートビュー] に「Script or Executable failed to run」というエラーが表示されることがあります。管理下システムが管理サーバーではない場合、アップグレードまたはアンインストールが完了するまで、システムをメンテナンスモードに切り替えてください。管理下システムが管理サーバーの場合は、アップグレードまたはアンインストールの完了後に、手動でアラートを閉じることができます。
- ① **メモ:** Server Administrator 7.2 DRAC ツールを使用するシステムでは、Server Administrator 7.4 DRAC ツール以降にアップグレードすることをお勧めします。
- ① **メモ:** 管理下システムでサポートされるオペレーティングシステムの詳細については、dell.com/support/home にある『OpenManage Server Administrator インストールガイド』を参照してください。

機能管理タスク

Dell EMC Server Management Pack をインストールすると、Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視機能が Operations Manager に自動的にインポートされ、その関連タスクが監視機能タスクセクションで利用可能になります。次の表は、**Dell EMC Feature Management Dashboard** で使用できるサーバおよびラック型ワークステーションの監視機能の一覧です。

Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視機能は、ライセンス不要な機能です。

- ① **メモ:** イベントログ内のエラーログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、監視機能のインポート中に **Dell EMC Feature Management Dashboard** が、インポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。
- ① **メモ:** **Dell EMC Feature Management Dashboard** を使用して別のタスクを開始する前に、タスクが完了するのを待ってください (ダッシュボードで状況アップデートの変更を表示します)。

表 13. 機能管理タスク

タスク	説明
エージェントプロキシの有効化	このタスクは、エージェントプロキシを有効にします。
優先監視方法として設定	セットアップでサーバおよびラック型ワークステーションの監視機能が、Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視機能と Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能の両方から監視されている場合、このタスクは Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視機能を、Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの優先監視方法として有効にします。

表 13. 機能管理タスク (続き)

タスク	説明
	詳細については、『 <i>Dell EMC OpenManage Integration Version 7.1 for Microsoft System Center Operations Manager User's Guide</i> 』(Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 ユーザーズガイド) の「機能管理タスク」を参照してください。
拡張可能機能への設定	システムで詳細機能が実行されている場合、 Dell EMC Feature Management Dashboard は詳細機能から拡張可能機能に切り替わります。 以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこの監視機能の最新バージョンを使用してください。
詳細機能への設定	システムで拡張可能機能が実行されている場合、 Dell EMC Feature Management Dashboard は拡張可能機能から詳細機能に切り替わります。 以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこの監視機能の最新バージョンを使用してください。
情報アラートをオンに設定	Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの拡張可能監視の使用時に、情報アラートがオンになります。
情報アラートをオフに設定	Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの拡張可能監視の使用時に、情報アラートがオフになります。
ダッシュボードの更新	Dell EMC Feature Management Dashboard を更新します。 ① メモ: ダッシュボードの更新 タスクはダッシュボードをただちにアップデートしない場合があります。ダッシュボードの内容のアップデートには数分かかることがあります。
ノード数の更新	この機能を使用して、監視されるサーバーのノード数を更新します。
監視機能の削除	Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視機能を削除します。

Operations Manager 向け DRAC 監視機能

DRAC 監視機能は、iDRAC6、iDRAC7、iDRAC8 などのさまざまな世代の iDRAC システムを検出し、SNMP を使用して監視します。

管理パック

Dell EMC Server Management Pack 管理パックのインポートが完了すると、必要な管理パックの一覧が Operations Manager コンソールの **管理** ペインに表示されます。詳細については、「[Operations Manager への管理パックのインポート](#)」を参照してください。

表 14. DRAC 監視機能と必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルト場所	必要な管理パック
DRAC 監視	ライブラリ %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.1\Library 管理パック	ライブラリ ● Dell.Connections.HardwareLibrary.mp ● Dell.OperationsLibrary.Common.mp 管理パック

表 14. DRAC 監視機能と必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルト場所	必要な管理パック
	%PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.1\Remote Access Monitoring	<ul style="list-style-type: none"> • Dell.DRAC.OM12.mp — Operations Manager 2012 以降 • Dell.Model.DRAC.mp • Dell.OperationsLibrary.DRAC.mp • Dell.View.DRAC.mp

設定の前提条件

SNMP 機能のためにファイアウォール上の SNMP ポートを有効化します。

管理サーバ (MS) の要件 (オプション)

表 15. オプションのソフトウェア要件

ソフトウェア	目的
Dell License Manager (iDRAC 7 システムのみ)	ライセンスを展開して、管理サーバーからレポートを収集します。[Dell License Manager] コンソールを起動するには、管理サーバーに Dell License Manager をインストールします。詳細については、 dell.com/support/home で『 <i>Dell License Manager ユーザーズガイド</i> 』を参照してください。
Dell OpenManage Power Center	[Power Center] コンソールを起動するには、管理サーバーに Dell OpenManage Power Center をインストールします。詳細については、 dell.com/support/home で『 <i>Dell OpenManage Power Center インストールガイド</i> 』を参照してください。

DRAC 監視要件

シャーシデバイスの正常性を監視するには、コミュニティ文字列 **Run As アカウント** を **Dell Remote Access Controller** クラス、またはそれぞれのシャーシオブジェクト (異なるシャーシデバイスに異なる Run As アカウントがある場合) をターゲットとして、**SNMP 監視アカウント** と関連付けます。

機能管理タスク

次の表は、**Dell EMC Feature Management Dashboard** で使用可能な DRAC 監視のタスクをリスト化しています。機能管理タスクの表に記載されているタスクの一部は、DRAC 監視機能をインポートした後にのみ表示されます。

- ① **メモ:** イベントログ内のエラーログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、監視機能のインポート中に **Dell EMC Feature Management Dashboard** が、インポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。
- ① **メモ:** **Dell EMC Feature Management Dashboard** を使用して別のタスクを開始する前に、タスクが完了するのを待ってください (ダッシュボードで状況アップデートの変更を表示します)。

表 16. 機能管理タスク

タスク	説明
DRAC 監視機能のインポート	OpsMgr で DRAC 監視機能を有効にします。
ダッシュボードの更新	Dell EMC Feature Management Dashboard を更新します。 ① メモ: ダッシュボードの更新 タスクはダッシュボードをただちにアップデートしない場合があります。ダッシュボードの内容のアップデートには数分かかることがあります。

表 16. 機能管理タスク (続き)

タスク	説明
ノード数の更新	ノード数を更新します。

Dell EMC OMIMSSC バージョン 7.1 でサポートされる監視機能

このセクションのトピックでは、Operations Manager 用の OMIMSSC バージョン 7.1 でサポートされる監視機能について説明します。

トピック：

- Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能
- Dell EMC シャーシ監視機能
- Dell EMC シャーシモジュラーサーバ関連機能
- Dell EMC ネットワークスイッチ監視機能

Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能

Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能は、次のデバイスの検出および監視方法に基づいて、詳細または拡張可能インベントリを提供します。

- 第 12~14 世代 PowerEdge サーバ
- PowerVault サーバ
- Dell Precision ラック
- Dell ブランドの OEM サーバー
- Dell OEM Ready サーバー
- PowerEdge Storage Space Direct Ready ノード

これらのデバイスのインベントリおよび監視は、監視プリファレンスに基づいて、次の方法のいずれかで管理下 Dell EMC サーバまたはラック型ワークステーションにインストールされた iDRAC または iDRAC サービスモジュール (ISM) から実行できます。

- iDRAC-WS-MAN
- ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- iSM-WMI

これは、ライセンス付きの機能です。

iDRAC-WS-MAN またはホスト OS からのサーバの監視に関する詳細については、『Dell EMC OpenManage Integration Version 7.1 for Microsoft System Center for Operations Manager User's Guide』(Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 ユーザーズガイド)の「Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーション (ライセンス対象) 機能」のセクションを参照してください。

ISM の対応プラットフォームのリストについては、Dell.com/manuals の『iDRAC Service Module Installation Guide』(iDRAC サービスモジュールインストールガイド)を参照してください。

管理パック

表 17. Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能および必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルト場所	必要な管理パック
Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象)	ライブラリ %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.1\Library 監視用管理パック	ライブラリ • Dell.Connections.HardwareLibrary.mp • Dell.OperationsLibrary.Common.mp 監視用管理パック

表 17. Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能および必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルト場所	必要な管理パック
	C:\PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.1\Server Monitoring	<ul style="list-style-type: none"> ● iSM-WMI で検出される Dell EMC サーバまたはラック型ワークステーションの場合： <ul style="list-style-type: none"> ○ Dell.ManagedServer.iSM.mp ○ Dell.ManagedServer.Model.mp ○ Dell.View.Server.mp ● iDRAC-WS-MAN で検出される Dell EMC サーバまたはラック型ワークステーションの場合： <ul style="list-style-type: none"> ○ Dell.Model.Server.mp ○ Dell.OperationsLibrary.Server.mp ○ Dell.Server.OOB.mp ○ Dell.View.Server.mp ● Dell.Model.Server.mp ● Dell.Server.SDK.mp ● Dell.Server.SDKServer.mp ● Dell.View.Server.mp

設定の前提条件

- iSM がインストールされていること
 - iSM-WMI からデバイスを検出する WMI 機能が有効に設定されていること
 - ホスト OS からの iDRAC アクセスによってデバイスを検出するために [ホスト OS からの iDRAC アクセス] が有効に設定されていること
- iDRAC に対する WS-MAN (WS-Management) 接続性があること
- ファイアウォールで SNMP ポートが有効になっていること
- Dell Device Helper がインストールされていること
- WinRM 設定の MaxEnvelopeSizeKb の値がより高い値になっていること (Windows Server 2008 R2 の場合のみ)

管理サーバー (MS) の要件

表 18. ソフトウェアの前提条件

ソフトウェア	目的
(必須) Operations Manager 2012 以降	Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視機能 (ライセンスが必要) は、Operations Manager 2012 以降を実行している管理サーバでのみ使用できます。 ⓘ メモ: Operations Manager 2016 を使用している場合、Nano Server を実行しているシステムに対しては、Microsoft のサポート技術情報記事 KB3190029 で提供されている <i>Microsoft System Center 2016 - Operations Manager 用アップデートロールアップ1</i> のエージェントパッケージを適用してください。詳細については、 support.microsoft.com/kb/3190029 を参照してください。
(必須) Microsoft の SMASH ライブラリ MPB	Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視機能 (ライセンスが必要) を使用して Dell EMC PowerEdge サーバを検出するには、Microsoft の SMASH ライブラリ MPB が必要です。詳細については、『 Installing the WS-Management and SMASH Device Template 』(WS 管理および SMASH デバイステンプレートのインストール) を参照してください。

表 18. ソフトウェアの前提条件 (続き)

ソフトウェア	目的
(オプション) Dell License Manager (iDRAC 7 以降のシステムのみ)	Dell License Manager コンソールを起動します。ライセンスを導入してレポートを収集するには、管理サーバに Dell License Manager をインストールしてください。詳細については、 dell.com/support/home で『 <i>Dell License Manager User's Guide</i> 』(Dell License Manager ユーザーズガイド) を参照してください。
(オプション) OpenManage Power Center	Dell OpenManage Power Center コンソールを起動します。Operations Manager コンソールを使用してデータセンターの電力消費量と温度を監視および管理するには、管理サーバに OpenManage Power Center をインストールします。詳細については、 dell.com/support/home で、『 <i>OpenManage Power Center Installation Guide</i> 』(OpenManage Power Center インストールガイド) を参照してください。

管理下システム要件

管理下システムを検出および監視するには、次の要件が満たされていることを確認します。

- 必要な iSM バージョンが Dell EMC デバイスにインストールされています。監視要件に基づいて、iDRAC コンソールから次の機能を有効にする必要があります。
 - iSM-WMI から監視する Windows Management Instrumentation (WMI) 機能
 - ホスト IP を使用して iDRAC から監視するホスト OS からの iDRAC アクセス (試験的機能)
- iDRAC7 以降

メモ: Microsoft Nano Server を実行しているシステムで iSM-WMI 機能を使用してデバイスを監視している場合は、Dell.com/support の『*iDRAC Service Module version 2.4 Installation Guide*』(iDRAC サービスモジュールバージョン 2.4 インストールガイド) の『**Nano オペレーティングシステムへの iDRAC サービスモジュールのインストール**』セクションを参照してください。

メモ: iDRAC ファームウェアバージョン 2.40.40.40 以降を使用している場合は、Transport Layer Security (TLS) バージョン 1.1 以降がデフォルトで有効に設定されています。Microsoft System Center Configuration Manager 用の Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.1 をインストールする前に、TLS のアップデートの詳細について、Support.microsoft.com/en-us/kb/3140245 を参照してください。お使いの Web ブラウザに基づいて、TLS 1.1 以降のサポートを有効にする必要があります。iDRAC の詳細については、Dell.com/idracmanuals を参照してください。

機能管理タスク

次の表に、**Dell EMC Feature Management Dashboard** で使用できる Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視(ライセンス対象) 機能タスクを示します。機能管理タスクの表に記載されているタスクの一部は、Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能をインポートした後にのみ表示されます。

メモ: サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能を使用して Dell EMC サーバを検出する前に Microsoft SMASH ライブラリ (MPB) がインストールされていることを確認し、機能管理タスク表に記載されているすべてのタスクを使用できるようにします。

イベントログ内のエラーログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、監視機能のインポート中に **Dell EMC Feature Management Dashboard** が、インポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。

メモ: **Dell EMC Feature Management Dashboard** の使用中は、タスクが完了するのを待ってから (ダッシュボードにタスクの状況を表示します) 別のタスクを開始するようにしてください。

表 19. 機能管理タスク

タスク	説明
エージェントプロキシの有効化	対応する iSM バージョンを実行している Dell EMC PowerEdge サーバ用のエージェントプロキシを有効にし、これらのサーバの検出も始動させます。
拡張可能機能 (ライセンス対象) への設定	システムで詳細機能が実行されている場合、 Dell EMC Feature Management Dashboard はこの監視方法のために詳細機能から拡張可能機能に切り替わります。 以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこの監視機能の最新バージョンを使用してください。
詳細機能 (ライセンス対象) への設定	システムで拡張可能機能が実行されている場合、 Dell EMC Feature Management Dashboard はこの監視方法のために拡張可能機能から詳細機能に切り替わります。 以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこの監視機能の最新バージョンを使用してください。
優先監視方法 (ライセンス対象) として設定	デバイスが Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視と Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能の両方から監視されている場合、Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能を、Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの優先監視方法として有効にします。 詳細については、『 <i>Dell EMC OpenManage Integration Version 7.1 for Microsoft System Center Operations Manager User's Guide</i> 』(Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 ユーザーズガイド)の「機能管理タスク」を参照してください。
イベント自動解決を有効にする	イベント自動解決機能を有効にします。
イベント自動解決を無効にする	イベント自動解決機能を無効にします。
Run-As アカウントの関連付け	このタスクでは、SMASH 検出に使用される Run As アカウントを、正常性監視に必要なすべての Dell サーバオブジェクトに関連付けます。詳細については、「 Run-As アカウントの関連付けタスク 」を参照してください。
監視機能 (ライセンス対象) の削除	Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能を削除します。
ダッシュボードの更新	Dell EMC Feature Management Dashboard を更新します。 ① メモ: ダッシュボードの更新 タスクはダッシュボードをただちにアップデートしない場合があります。ダッシュボードの内容のアップデートには数分かかることがあります。
ノード数の更新	この機能を使用して、監視されるサーバのノード数を更新します。

Dell EMC シャーシ監視機能

Dell EMC シャーシ監視機能は、PowerEdge MX7000、PowerEdge FX2/FX2s シャーシ、PowerEdge VRTX シャーシ、PowerEdge M1000E シャーシ、および Dell OEM Ready シャーシ上の Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modulation (CMC/OME-M) の検出と監視について、次を使用してサポートします。

- SNMP および / または WS-MAN プロトコル

- RedFish

Dell EMC シャーシ監視機能は、対応する Operations Manager の個々のシャーシコンポーネントの詳細監視もサポートします。

管理パック

次の表には、Dell EMC シャーシ監視機能のために必要な管理パックを一覧表示しています。

表 20. 必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルト場所	必要な管理パック
Dell EMC シャーシ監視	ライブラリ %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.1\Library 監視用管理パック %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.1\Chassis Monitoring	ライブラリ <ul style="list-style-type: none"> • Dell.Connections.HardwareLibrary.mp • Dell.OperationsLibrary.Common.mp 監視用管理パック <ul style="list-style-type: none"> • Dell.CMC.SDK.mp • Dell.Model.CMC.mp • Dell.CMC.Sync.mp • Dell.View.SDKCMC.mp

設定の前提条件

- ファイアウォールで SNMP ポートが有効になっていること。
- Dell Device Helper がインストールされていること。
- 管理サーバーと管理下ノードの間に WS-MAN (WS 管理) 接続があること。

Dell EMC シャーシ監視の要件

- スロット検出と相関を機能させるには、Dell Device Helper Utility がインストールされていることを確認してください。
- シャーシコントローラ、IO モジュール、IO モジュールグループ、電源装置、および電源装置グループコンポーネントを監視します。
- シャーシデバイスの正常性を監視するには、コミュニティ文字列 **Run As アカウント** を **Dell Modular Chassis** クラス、またはそれぞれのシャーシオブジェクト (異なるシャーシデバイスに異なる Run As アカウントがある場合) をターゲットとして、**SNMP 監視アカウント** と関連付けます。
- Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) のシャーシスロットおよびシャーシスロットサマリを検出するには、**Run As アカウント** を作成し、そのアカウントを **Dell CMC ログインアカウント** Run As プロファイルに関連付けます。また、Operations Manager コンソールから **CMC スロット検出** も有効にします。詳細に関しては、「[サーバモジュールをシャーシスロットサマリと相関させるための Chassis Management Controller 機能の設定](#)」を参照してください。
- シャーシ詳細監視を実行するには、Dell EMC CMC/OME-M へのアクセスに必要な WS-MAN 資格情報で **Run As アカウント** を作成し、そのアカウントをプロファイル (**Dell CMC ログインアカウント** Run As プロファイル) に関連付けます。

① メモ:

- Dell EMC CMC/OME-M 用に AD ドメイン資格情報を使用している場合は、**username@domainname.com** というフォーマットで資格情報を入力してください。

サーバモジュールとシャーシスロットサマ리를相関させるための Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) 機能の設定

サーバモジュールを相関させるために Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) 機能を設定するには、**Run As** アカウント を作成してそれを Run As プロファイルに関連付け、シャーシスロットサマ리의自動入力を行います。

1. シャーシの CMC/OME-M に接続する権限のある、簡易認証タイプの **Run As** アカウント を作成します。また、ユーザー資格情報を設定するには、**ベーシック** または **ダイジェスト** の Run As アカウントタイプを使用します。
2. 特定の管理サーバに対して選択的に設定を適用できるようにするため、**Run As** アカウント 設定で、**高セキュリティ** または **低セキュリティ** オプションを選択します。

簡易認証タイプの **Run As** アカウント の作成方法については、Dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement で『*Dell EMC OpenManage Integration version 7.1 for Microsoft System Center for Operations Manager User's Guide*』(Microsoft System Center Operations Manager 向け Dell EMC OpenManage Integration バージョン 7.1 ユーザーズガイド) の「簡易認証 Run As アカウントの作成」を参照してください。

メモ: サーバ管理アクションアカウントを Operations Manager 管理者グループに追加します。

3. 作成した Run As アカウントを **Dell CMC ログインアカウント** のプロファイルに関連付け、プロファイル上で設定できる適切なクラス、グループ、またはオブジェクトを選択します。
 - CMC/OME-M のスロットサマリ検出を有効にするには、**Dell CMC スロット検出** で有効化プロパティを **True** にオーバーライドします。これは、デフォルトでは無効になっています。

メモ: スロット検出後、**RunAs** アカウント と **RunAs** プロファイル 間のリンクを削除、またはスロット検出ワークフローを無効化すると、検出されたスロットには古いデータが残ります。

機能管理タスク

次の表は、**Dell EMC Feature Management Dashboard** で使用可能な Dell EMC シャーシ監視のタスクをリスト化しています。機能管理タスクの表に記載されているタスクの一部は、Dell EMC シャーシ監視機能をインポートした後のみ表示されます。

メモ: イベントログ内のエラーログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、監視機能のインポート中に **Dell EMC Feature Management Dashboard** が、インポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。

メモ: **Dell EMC Feature Management Dashboard** を使用して別のタスクを開始する前に、タスクが完了するのを待ってください (ダッシュボードで状況アップデートの変更を表示します)。

表 21. 機能管理タスク

タスク	説明
拡張可能監視の設定	システムで詳細機能が実行されている場合、 Dell EMC Feature Management Dashboard は詳細機能から拡張可能機能に切り替わります。 以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこの監視機能の最新バージョンを使用してください。
詳細監視の設定	システムで拡張可能機能が実行されている場合、 Dell EMC Feature Management Dashboard は拡張可能機能から詳細機能に切り替わります。
ノード数の更新	ノード数を更新します。
ダッシュボードの更新	Dell EMC Feature Management Dashboard を更新します。 メモ: ダッシュボードの更新 タスクはダッシュボードをただちにアップデートしない場合があります。ダッシュ

表 21. 機能管理タスク (続き)

タスク	説明
	ボードの内容のアップデートには数分かかることがあります。

Dell EMC シャーシモジュラーサーバ関連機能

シャーシモジュラーサーバ関連機能は次をサポートします。

- シャーシスロットでライセンス対象またはライセンス不要の監視機能を使用して検出されたモジュラーサーバ相関。
 - メモ:** Dell EMC Chassis Management Controller/OpenManage Enterprise Modular (CMC/OME-M) スロット検出はデフォルトで無効になっています。このため、相関機能を動作させるには、CMC/OME-M スロット検出を有効にします。
- シャーシ共有ストレージコンポーネントと Dell EMC PowerEdge サーバの相関。
 - メモ:** シャーシ共有コンポーネントと Dell EMC PowerEdge サーバとの相関のために、Dell EMC シャーシ詳細監視をインポートします。

管理パック

Dell EMC Server Management Pack の管理パックが正常にインポートされると、Operations Manager コンソールの **管理** ペインに必要な管理パックが表示されます。詳細については、「[Operations Manager への管理パックのインポート](#)」を参照してください。

表 22. Dell EMC シャーシモジュラーサーバ相関監視機能と必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルト場所	必要な管理パック
Dell EMC シャーシモジュラーサーバ相関	ライブラリ %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.1\Library 管理パック %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.1\ChassisModular ServerCorrelation	ライブラリ <ul style="list-style-type: none"> Dell.Connections.HardwareLibrary.mp Dell.OperationsLibrary.Common.mp 管理パック <ul style="list-style-type: none"> Dell.ChassisModularServer.Correlation.mp

管理サーバー (MS) の要件

シャーシモジュラーサーバ相関監視要件

分散型 Operations Manager 環境におけるシャーシブレード相関

プロキシエージェントを有効化するには、次の手順を実行します。

- Operations Manager コンソールで **管理** をクリックします。
- 管理** ペインで、**管理 > デバイス管理 > 管理サーバ** と展開します。
- シャーシデバイスを検出した管理サーバを選択します。
- 右クリックして、**プロパティ** を選択します。
- 管理サーバプロパティ** で、**セキュリティ** をクリックします。
- このサーバをプロキシとして動作させて、**他のコンピュータの管理下オブジェクトを検出する** を選択します。
- OK** をクリックします。

機能管理タスク

次の表は、**Dell EMC Feature Management Dashboard** で使用可能な Dell EMC シャーシモジュールサーバ関連機能の監視のタスクをリスト化しています。機能管理タスクの表に記載されているタスクの一部は、Dell EMC シャーシモジュールサーバ関連機能をインポートした後にのみ表示されます。

- ① **メモ:** イベントログ内のエラーログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、監視機能のインポート中に **Dell EMC Feature Management Dashboard** が、インポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。
- ① **メモ:** **Dell EMC Feature Management Dashboard** を使用して別のタスクを開始する前に、タスクが完了するのを待ってください (ダッシュボードで状況アップデートの変更を表示します)。

表 23. 機能管理タスク

タスク	説明
ノード数の更新	ノード数を更新します。
ダッシュボードの更新	Dell EMC Feature Management Dashboard を更新します。 ① メモ: ダッシュボードの更新 タスクはダッシュボードをただちにアップデートしない場合があります。ダッシュボードの内容のアップデートには数分かかることがあります。
シャーシモジュールサーバ関連機能の削除	Dell EMC シャーシモジュールサーバ関連機能を削除します
シャーシモジュールサーバ関連機能のアップグレード	Dell EMC シャーシモジュールサーバ関連機能を最新バージョンにアップグレードします。

Dell EMC ネットワークスイッチ監視機能

Dell EMC ネットワークスイッチ監視機能は、M シリーズ、Z シリーズ、N シリーズ、S シリーズスイッチなどのネットワークスイッチを検出して監視します。ネットワークスイッチ監視機能では、SNMP ベースで通信が行われます。

Dell EMC ネットワークスイッチ監視機能は、サポート対象 Operations Manager の個々のスイッチコンポーネントの詳細なレベルでの監視も行います。

管理パック

次の表には、Dell EMC ネットワークスイッチ監視機能のために必要な管理パックがリストされています。

表 24. 必要な管理パック

特長	管理パックのデフォルト場所	必要な管理パック
Dell EMC ネットワークスイッチ監視	ライブラリ %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.1\Library 監視用管理パック %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.1\NetworkSwitch Monitoring	ライブラリ ● Dell.Connections.HardwareLibrary.mp ● Dell.OperationsLibrary.Common.mp 監視用管理パック ● Dell.NetworkSwitch.mp ● Dell.View.NetworkSwitch.mp

機能管理タスク

次の表は、**Dell EMC Feature Management Dashboard** で使用できる Dell EMC ネットワークスイッチ監視タスクの表です。機能管理タスクの表に記載されているタスクの一部は、ネットワークスイッチ監視機能をインポートするまで表示されません。

- ① **メモ:** イベントログ内のエラーログにある、既存の管理パックの再インポートに関するエラーは無視してください。これらのエラーは、監視機能のインポート中に **Dell EMC Feature Management Dashboard** が、インポート済みのすべての依存管理パックを再インポートしたときに発生します。
- ① **メモ:** **Dell EMC Feature Management Dashboard** を使用して別のタスクを開始する前に、タスクが完了するのを待ってください (ダッシュボードで状況アップデートの変更を表示します)。

表 25. 機能管理タスク

タスク	説明
ノード数の更新	ノード数を更新します。
ダッシュボードの更新	<p>Dell EMC Feature Management Dashboard を更新します。</p> <p>① メモ: ダッシュボードの更新 タスクはダッシュボードをただちにアップデートしない場合があります。ダッシュボードの内容のアップデートには数分かかることがあります。</p>
拡張可能監視の設定	<p>システムで詳細機能が実行されている場合、Dell EMC Feature Management Dashboard は詳細機能から拡張可能機能に切り替わります。</p> <p>以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこの監視機能の最新バージョンを使用してください。</p>
詳細監視の設定	<p>システムで拡張可能機能が実行されている場合、Dell EMC Feature Management Dashboard は拡張可能機能から詳細機能に切り替わります。</p> <p>以前のバージョンからのアップグレードを行うときには、このタスクを実行してこの監視機能の最新バージョンを使用してください。</p>

トラブルシューティング

本章では、インストール関連のエラーのトラブルシューティングについての情報を説明します。

トピック：

- OMIMSSC アプライアンスと Operations Manager コンソールとの間の接続の切断
- Mozilla Firefox ブラウザを介して Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルにアクセスする際のエラーメッセージ
- OMIMSSC アプライアンスへの接続の失敗
- Dell EMC OMIMSSC アプライアンスと Operation Manager コンソール間の接続のテストに失敗する
- OMIMSSC アプライアンスに割り当てられていない IP アドレス
- 進行中のアプライアンス検出ジョブスタック
- Operations Manager コンソールで Dell EMC OMIMSSC を起動できない
- Dell EMC OMIMSSC の再起動後に Dell EMC デバイスの検出と監視が失敗する
- イベント ID 33333 : SqlError でデータアクセスレイヤが再試行を拒否する
- Dell EMC Feature Management Dashboard が自動入力されない
- Feature Management Dashboard タスクが失敗する
- 機能管理アラート
- Feature Management Host Server の正常性サービスが機能していない

OMIMSSC アプライアンスと Operations Manager コンソールとの間の接続の切断

OMIMSSC がインストールされているサーバを再起動すると、OMIMSSC アプライアンスと Operations Manager コンソールとの間の接続が失われます。これは、ユーザーの Operations Manager コンソールの実行ポリシーがアクティブではないためです。Operations Manager コンソールのユーザーアカウントを使用して Operations Manager コンソールサーバにログインし、実行ポリシーをアクティブにします。ただし、ログイン後も、次の手順が完了するまで接続は復元されません。

PowerShell 実行ポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

1. ローカルシステムの PowerShell 実行ポリシーを RemoteSigned に設定し、Operations Manager コンソールアカウントを Unrestricted に設定します。

ポリシー設定の詳細に関しては、次の MSDN の記事を参照してください。

- **PowerShell 実行ポリシー** : technet.microsoft.com/en-us/library/hh847748.aspx
- **PowerShell グループポリシー** : technet.microsoft.com/library/jj149004

2. 実行ポリシーが設定されたら、Operations Manager コンソールサーバを再起動します。

Mozilla Firefox ブラウザを介して Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルにアクセスする際のエラーメッセージ

Mozilla Firefox ブラウザを使用して Dell EMC OMIMSSC 管理ポータルにアクセスすると、警告メッセージ、「セキュア接続に失敗」が表示されます。

これを回避するには、ブラウザの admin portal の前回のエントリから作成された証明書を削除します。

OMIMSSC アプライアンスへの接続の失敗

Operations Manager 環境用 OMIMSSC のインストール後に OMIMSSC アプライアンスアイコンをクリックすると、「Connection to server failed」というエラーが表示されます。

回避策として、次の手順を実行します。

- アプライアンスの IP と FQDN を信頼済みサイトとして追加します。
- アプライアンスの IP と FQDN を DNS の **前方参照ゾーン** および **逆引き参照ゾーン** に追加します。
- C:\ProgramData\VMMLogs\AdminConsole ファイルにエラーメッセージがないか確認します。

Dell EMC OMIMSSC アプライアンスと Operation Manager コンソール間の接続のテストに失敗する

ユーザー名が同じで、パスワードがドメインユーザーアカウントとローカルユーザーアカウントで異なる場合、Operations Manager コンソールとアプライアンス間の接続テストに失敗します。

たとえば、次のとおりです。

ドメインユーザーアカウント : domain\user1、pwd1

ローカルユーザーアカウント : user1、Pwd2

ユーザーが上記のドメインユーザーアカウントで登録しようとすると、接続テストに失敗します。

回避策 : 回避策としては、ドメインユーザーアカウントとローカルユーザーアカウントとで異なるユーザー名を使用するか、あるいはアプライアンスでの Operations Manager 登録時に単一のユーザーアカウントをローカルユーザーとして使用します。

OMIMSSC アプライアンスに割り当てられていない IP アドレス

アプライアンスを作成したり操作すると、IP アドレスが割り当てられなかったり、黒のコンソールに表示されます。

この問題を回避するには、仮想スイッチが、物理スイッチにマップされており、正しく設定されていることを確認して、OMIMSSC アプライアンスに接続します。

進行中のアプライアンス検出ジョブスタック

トリガーされたデバイス検出ジョブが、OMIMSSC アプライアンスの実行タスクリストに 5 時間以上もスタックされます。

回避策として、同じ IP アドレスのセットを使用して、デバイス検出のためのジョブを新たに作成して実行してください。

Operations Manager コンソールで Dell EMC OMIMSSC を起動できない


登録後に **Dell EMC OpenManage Integration Dashboard** が Operations Manager にロードされない場合、または OMIMSSC アプライアンスの IP に変更がある場合。

この問題を回避するには、ユニット監視で OMIMSSC アプライアンスの IP を更新します。

1. Operations Manager コンソールにログインします。
2. ペインの左下にある **オーサリング** をクリックします。
3. **オーサリング > Management Pack オブジェクト > 監視** を参照します。
4. **検索対象** フィールドで、**管理サーバ** 配下の **Dell EMC SDK オーバーライドアプライアンス IP** を検索します。
5. **Dell EMC SDK オーバーライドアプライアンス IP** を右クリックし、**オーバーライド > 監視のオーバーライド > クラスのすべてのオブジェクト** を選択します。


プロパティのオーバーライドウィザードが表示されます。

6. パラメーター名の下に **Dell EMC アプライアンス IP** を選択します。オーバーライド値を更新し、**OK** をクリックします。

 **メモ:** 他のオーバーライドパラメーターは選択しないでください。

Dell EMC OMIMSSC の再起動後に Dell EMC デバイスの検出と監視が失敗する

OMIMSSC を再起動すると、Operations Manager と OMIMSSC アプライアンスとの間の接続が切断されます。アプライアンスが起動すると、次の検出および監視サイクル後に、Dell EMC デバイスのすべての検出および監視が復元されます。

 **メモ:** 検出および監視サイクルのデフォルトは 24 時間です。

24 時間のサイクルより前に Dell EMC デバイスの検出および監視を開始するには、オーバーライド値を変更してください。

オーバーライド値を変更するには、次の操作を行います。

- Dell EMC OMIMSSC にログインします。
- **プロファイルおよび設定 > 設定** の順に選択します。
- **編集** タブをクリックし、オーバーライド値を編集するデバイスを選択します。
- 検出間隔列で、オーバーライド値を編集して、**適用** をクリックします。
- オーバーライド値を変更すると、ただちに検出が再度トリガーされます。
- (オプション) **ジョブおよびログセンター > スケジュール ジョブ** にアクセスすると、適用された変更が表示されます。

イベント ID 33333: SqlError でデータアクセスレイヤが再試行を拒否する

iSM 管理パックがプロキシエージェントを検出しようとする時、管理サーバでイベント ID 33333 の警告イベントが生成されます。このイベントが発生しないようにするには、プロキシエージェントをターゲットとする iSM 検出を無効にする必要があります。

プロキシエージェントで実行される iSM 検出を無効にし、イベント ID 33333 が再度生成されないようにするには、次の手順を実行します。

1. Operations Manager コンソールにログインします。
2. 左下のペインで、**オーサリング > 管理パックオブジェクト > オブジェクトの検出** を選択します。
3. **検索対象** フィールドで、**iSM** を検索します。
4. **検出タイプ: Dell サーバ > Dell サーバの検出** の順に選択します。
5. **Dell サーバの検出** を右クリックして、**オーバーライド > オブジェクト検出のオーバーライド > 特定のグループ** の順に選択します。
オブジェクトの**選択**ウィザードが表示されます。
6. **DellProxyMSGroup** を選択して、**OK** をクリックします。

Dell EMC Feature Management Dashboard が自動入力されない

分散型セットアップでは、Dell EMC Server Management Pack が最初にインストールされた管理サーバが、検出、アラートおよびタスクなどのすべての機能管理アクティビティをホストするために選択されます。Dell EMC Server Management Pack が最初にインストールされた管理サーバが、**Dell EMC Feature Management Dashboard** にデータを自動入力します。ただし、管理サーバでインストーラを実行せずに Feature Monitoring Management Pack を手動でインポートした場合、Feature Management Pack ホストは選択されないため、**Dell EMC Feature Management Dashboard** は自動入力されません。


Dell EMC Feature Management Dashboard でデータの自動入力を行うには、次の手順を実行します。

1. Operations Manager コンソールで、**オーサリング** をクリックします。
2. **オーサリング** で、**Management Pack オブジェクト** を展開します。
3. **オブジェクトの検出** をクリックします。

4. 検索対象：フィールドで、**Dell Feature Management** ホスト検出を検索します。
5. **Dell Feature Management** ホスト検出を右クリックして、オーバーライド > オブジェクト検出のオーバーライド > クラスのすべてのオブジェクト：**Dell Feature Management** ホスト検出の順に選択します。
6. 機能管理アクティビティを実行するには、**FmpHostFqdn** を選択して、管理サーバーの FQDN の上書き値を設定します。

Feature Management Dashboard タスクが失敗する

Feature Management Dashboard でのアップグレードタスクの実行は、データ喪失の原因になる場合があります。たとえば、変更されている監視機能に依存性または関連性が存在すると、アップグレードタスクが失敗し、適切なメッセージが表示されます。

 **注意:** タスクのパラメータを上書きすると、管理パックまたは動作データが失われる場合があります。

1. Operations Manager コンソールを起動して、**監視** をクリックします。
2. **監視** ペインで、**Dell > Feature Management Dashboard** と移動します。
Feature Management Dashboard に、Operations Manager にある管理パックとアップグレード可能な管理パックのバージョンのリストが表示されます。
3. 監視機能を選択します。
4. タスクで、**Dell 監視機能タスク** を展開します。
5. 監視のアップグレードタスクをクリックします。
たとえば、シャーシ監視機能をアップグレードするには、**Dell 監視機能タスク** でシャーシ監視機能のアップグレードをクリックします。
6. タスクの実行 — 監視機能のアップグレード画面で、**上書き** をクリックします。
タスクのパラメータのオーバーライドが表示されます。
7. 新しい値のドロップダウンメニューで、**警告/エラーの自動解決** を **True** に変更します。
8. **上書き** をクリックします。
9. **実行** をクリックしてタスクを実行します。

機能管理アラート

表 26. 機能管理アラート

アラートテキスト	アラート状態	原因	解像度
Dell FMP : Dell Device Helper ユーティリティが存在していないか、または Dell EMC サーバおよびラックの監視 (ライセンス対象) の管理パックとの互換性がありません。	重要	必要な Dell Device Helper Utility バージョンが見つからなかった、または Dell Device Helper Utility が破損しています。 必要な Dell Device Helper Utility バージョンよりも新しいバージョンが見つかりました。 必要な Dell Device Helper Utility バージョンよりも古いバージョンが見つかりました。	管理サーバ上で Dell EMC Server Management Pack Suite バージョン 7.1 インストーラを実行してください。 インストーラの 修復 オプションの使用。詳細については、「 Dell EMC Server Management Pack スイートでの修復オプションの使い方 」を参照してください。

Feature Management Host Server の正常性サービスが機能していない

分散型セットアップでは、Dell EMC Server Management Pack が最初にインストールされた管理サーバが、検出、アラートおよびタスクなどのすべての機能管理アクティビティをホストするために選択されます。選択した管理サーバが機能を停止した場合、実行された機能管理タスクは失敗し、**Dell EMC Feature Management Dashboard** にデータが自動入力されません。選択した管理サーバが破損しているか、または正常性サービスが取得されていない場合は、管理サーバを廃棄して古いオブジェクトを削除します。詳細については、technet.microsoft.com/en-us/library/hh456439.aspx を参照してください。

Dell EMC Feature Management Dashboard でデータの自動入力を行うには、次の手順を実行します。

1. Operations Manager コンソールで、**オーサリング** をクリックします。

2. オーサリングで、**Management Pack** オブジェクトを展開します。
3. オブジェクトの**検出**をクリックします。
4. **検索対象**：フィールドで、**Dell Feature Management** ホスト**検出**を検索します。
5. **Dell Feature Management** ホスト**検出**を右クリックして、**オーバーライド > オブジェクト検出のオーバーライド > クラスのすべてのオブジェクト : Dell Feature Management** ホスト**検出**の順に選択します。
6. **FmpHostFqdn**を選択し、上書き値を Feature Management のアクティビティが実行される必要がある管理サーバーの FQDN に設定します。

トピック：

- Web Services Management (WS-Man) と SMASH デバイステンプレートのインストール
- 登録解除中に到達不能となった Operations Manager コンソールの手動クリーンアップ
- Run As アカウントの関連付けタスク — Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能

Web Services Management (WS-Man) と SMASH デバイステンプレートのインストール

WS-Man と SMASH デバイステンプレートをインストールするには、次の手順を実行します。

1. www.microsoft.com/en-in/download/confirmation.aspx?id=29266 から、SMASH ライブラリ MPB ファイル `WS-ManagementAndSMASHDeviceDiscoveryTemplate.msi` を一時的な場所にダウンロードします。
2. `.msi` を実行して、SMASH Library MPB ファイルをユーザー/デフォルトの場所にコピーします。
3. Operations Manager コンソール を起動します。
4. ナビゲーションペインで、**管理** をクリックします。
5. **管理** を展開し、**管理パック** をクリックして、右ペインの **管理パックのインポート** を選択します。
6. **追加 > ディスクから追加** をクリックします。
7. Microsoft の SMASH ライブラリ MPB ファイルをダウンロードした場所の詳細を入力するか、その場所に移動します。
8. MPB ファイルを選択して **開く** をクリックします。
管理パックのインポート画面 が表示され、**インポートリスト** にテンプレートが表示されます。
9. **インストール** をクリックします。

登録解除中に到達不能となった Operations Manager コンソールの手動クリーンアップ

登録解除中に Operations Manager コンソールにアクセスできず、強制的に登録解除した場合、インストールされた管理パックは到達不能コンソールからクリーンアップされません。Operations Manager の完全クリーンアップを実行するには、次の手順を実行します。


1. Operations Manager コンソール を起動します。
2. ペインの左下にある **オーサリング** を選択します。
3. 左側の **オーサリング** ペインで **グループ** をクリックすると、グループのリストが表示されます。
4. リストから **DellProxyMSGGroup** を選択します。グループに追加された明示的なメンバーがないか確認し、削除します。グループを右クリックして、**削除** をクリックします。
DellProxyMSGGroup が削除されます。
5. 左下のペインから **管理** を選択します。
6. Operations Manager 2016 以降では、左側のペインで [**管理**] > [**管理パック**] > [**インストール済み管理パック**] を選択するとインストールされている管理パックのリストが表示されます。Operations Manager 2012 R2 では、[**管理**] > [**管理パック**] を選択すると管理パックのリストが表示されます。
7. 管理パックを次の順序で (必要に応じて) 選択し、それぞれを右クリックして **削除** を選択し、コンソールから管理パックを削除します。
 - Dell EMC シャーシモジュラーサーバ相関ユーティリティ
 - Dell EMC Managed Server iSM Management Pack
 - Dell EMC Server OpenManage Integration Dashboard ビュー
 - Dell EMC Windows Server (拡張可能エディション)
 - Dell EMC Feature Management TaskRefresher

- Dell EMC Feature Management Override
 - Dell EMC Managed Server Model Library
 - Dell EMC グループ作成
 - Dell EMC Server Operations Library
 - Dell EMC 機能管理
 - Dell EMC シャーシ CMC ビュー
 - Dell EMC シャーシ CMC モデル
 - Dell EMC CMC Operations Library
 - Dell EMC サーバ表示
 - Dell EMC SDK ApplianceIP Override
 - Dell EMC Server Model
 - Dell EMC Server View Library
 - Dell EMC Server Model Library
 - Dell EMC CMC モデル
 - Dell EMC AgentResource 0 Override
 - Dell EMC NetworkSwitch ビュー
 - Dell EMC NetworkSwitch
 - Dell EMC PerformanceThreshold Monitor Override
 - Dell EMC Base Hardware Library
 - Dell EMC Operations Library Common
 - Dell EMC Appliance Information Management Pack
 - Dell EMC Configuration Management Pack
- すべての管理パックとオーバーライドが削除されます。

8. %PROGRAMFILES%\Dell Management Packs\Server Mgmt Suite\7.1\ のパスで、ローカルドライブにある **Dell 管理** パック フォルダを削除します。
9. レジストリエディタ から **Dell Server Management Pack Suites** のレジストリエントリを削除するには、次の手順に従います。
 - **HKEY_LOCAL_MACHINE > SOFTWARE > Dell > Dell Server Management Pack Suites** を選択し、右クリックしてレジストリエントリを削除します。

Run As アカウントの関連付けタスク — Dell EMC サーバおよびラック型ワークステーションの監視 (ライセンス対象) 機能

Run As アカウントの関連付けタスクでは、SMASH 検出で使用した Run As アカウントを、正常性監視に必要なすべての Dell サーバオブジェクトに関連付けます。このタスクは、オブジェクトレベルの関連付けを実行するオプションとして使用できます。

 **警告:** Run As アカウントの関連付けタスクは、必要な場合にのみ実行してください。このタスクは、すべての Dell サーバオブジェクトの設定に影響します。Dell サーバ Run As アカウント関連ユニット監視は、オブジェクトレベルの関連付けを自動的に実行します。

Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス

次のリンクを使用して、必要なドキュメントにアクセスします。

- Dell EMC エンタープライズシステム管理のマニュアル — www.dell.com/SoftwareSecurityManuals
- Dell EMC OpenManage マニュアル — www.dell.com/OpenManageManuals
- Dell EMC リモートエンタープライズシステム管理のマニュアル — www.dell.com/esmanuals
- iDRAC マニュアル — www.dell.com/idracmanuals
- Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズシステム管理のマニュアル — www.dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement
- Dell EMC Serviceability Tools マニュアル — www.dell.com/ServiceabilityTools
- 1. www.support.dell.com にアクセスします。
 2. **すべての製品を参照** をクリックします。
 3. **すべての製品** ページで **ソフトウェア** をクリックして、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - 統計
 - クライアントシステム管理
 - エンタープライズアプリケーション
 - エンタープライズシステム管理
 - 公共機関向けソリューション
 - ユーティリティ
 - メインフレーム
 - 保守ツール
 - 仮想化ソリューション
 - オペレーティングシステム
 - サポート
 4. マニュアルを表示するには、該当する製品をクリックして、該当するバージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
 - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。